

平成16年度（第48回）
岩手県教育研究発表会発表資料

道 徳

心に響く道徳の時間の指導に関する研究

- 生徒の価値意識や生活の実態に応じた
指導過程と指導法の工夫をとおして -

研究協力校
大迫町立大迫中学校

平成17年2月9日
岩手県立総合教育センター
教科領域教育室
堀村 克利

目 次

研究目的	1
研究仮説	1
研究の年次計画	1
本年度の研究内容与方法	1
1 研究の目標	1
2 研究の内容	1
3 研究の方法	2
4 研究協力校	2
研究結果の分析と考察	2
1 心に響く道德の時間の指導に関する基本的な考え方	2
(1) 心に響く道德の時間とは	2
(2) 心に響く道德の時間の指導の意義	2
(3) 生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法の工夫をすることの意義	3
2 心に響く道德の時間の指導に関する基本構想	3
(1) 生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法の工夫と進め方	3
(2) 心に響く道德の時間の指導に関する基本構想図	4
3 心に響く道德の時間の指導に関する手だての試案	5
(1) 生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法を工夫した心に響く道德の 時間の手だての試案作成のための視点	5
(2) 生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法を工夫した心に響く道德の 時間の手だての試案	5
4 心に響く道德の時間の手だての試案に基づく指導実践計画の立案	6
(1) 心に響く道德の時間の指導実践計画	6
(2) 心に響く道德の時間の展開案の作成	6
5 検証計画と指導実践の概要	9
(1) 検証計画並びに調査計画の概要	9
(2) 指導実践の概要	10
6 指導実践の分析と考察	15
(1) 構成要素について	15
(2) 手だてに関する意識の状況について	18
7 心に響く道德の時間の指導に関する研究のまとめ	19
(1) 成果	19
(2) 課題	20
研究のまとめ	20
1 研究の成果	20
2 今後の課題	21

おわりに

【参考文献】

研究目的

道徳の時間は、学校生活全体で行われる道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成することを目標としている。そのため、各種の資料を基に登場人物の心情や行為を話し合いながら、ねらいとする道徳的価値を追求していく。

ところが、道徳の時間の話し合いで、生徒が資料の登場人物に共感したり、自分を重ね合わせて考えたりすることができず、生徒の道徳の時間への学習意欲が高まっていない。これは、生徒に内面から道徳的価値を考えさせるための手だてが十分ではなかったことによるものと思われる。

このような状況を改善するためには、生徒の価値意識や生活の実態に応じた資料の提示や発問の構成、生徒の反応の取り上げ方や交流のさせ方などを工夫することによって、話し合いが生徒の心に響き、生徒自らが考えたい道徳の時間を展開していくことが必要である。

そこで、この研究は、中学校の道徳の時間において、生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法を工夫することにより、生徒の心に響く道徳の時間の指導について明らかにし、道徳の時間の指導の充実に役立てようとするものである。

研究仮説

中学校の道徳の時間の指導において、生徒の価値意識や生活の実態を把握し、それに応じた豊かな表現活動を位置付けた指導過程を作成し、その指導過程に基づき資料の選択や提示の仕方を工夫した指導を行えば、生徒の心に響き、生徒自らが考えたい道徳の時間が展開でき、道徳の時間の指導の充実に資することができるであろう。

研究の年次計画

この研究は、平成15年度から平成16年度にわたる2年次研究である。

第1年次（平成15年度）

心に響く道徳の時間の指導についての基本的な考え方の検討、基本構想の立案、心に響く道徳の時間の手だての試案の作成

第2年次（平成16年度）

心に響く道徳の時間の手だての試案に基づく指導実践計画の立案、指導実践とその分析・考察、研究のまとめ

本年度の研究内容と方法

1 研究の目標

中学校道徳の時間における心に響く道徳の時間の手だての試案に基づく指導実践計画を立案し、指導実践を行うとともに、その分析・考察をとおして、心に響く道徳の時間の指導に関する研究について、生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法の工夫の有効性について検討し、研究の妥当性を明らかにする。

2 研究の内容

- (1) 中学校道徳の時間における心に響く道徳の時間の手だての試案に基づく指導実践計画の立案
心に響く道徳の時間の手だての試案を基に、研究協力校における指導実践計画を立案する。
- (2) 指導実践計画に基づく指導実践とその分析・考察
指導実践計画に基づき指導実践を行い、その結果について、指導実践並びに生徒と学級担任へのアンケートを基に分析・考察する。
- (3) 中学校道徳の時間における心に響く道徳の時間に関する研究のまとめ
指導実践の成果と課題をまとめ、生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法を工夫した心に響く道徳の時間の指導に関する研究の妥当性を明らかにする。

3 研究の方法

(1) 指導実践

心に響く道德の時間に関する指導実践計画に基づいた指導実践を行い、生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法の工夫の有効性を確かめる。

(2) 質問紙法

生徒を対象とした調査を指導実践の事前事後に、また、学級担任を対象とした調査を指導実践後に行い、生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法の工夫の有効性を確かめる。

4 研究協力校

大迫町立大迫中学校

研究結果の分析と考察

1 心に響く道德の時間の指導に関する基本的な考え方

(1) 心に響く道德の時間とは

これからの教育においては、「生きる力」の育成が不可欠である。そのために教育課程の基準の改訂のねらいに「豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚」の育成が上げられている。「豊かな人間性や社会性」とは、人間として、社会の一員として主体的に生きるための基本となる資質や能力であり、豊かな道德性を意味する。

道德の時間は学校生活全体で行われる道德教育と関連を図りながら、道德性を補充、深化、統合し、道德的価値の自覚を深め、道德的实践力を育成することを目標としている。特に中学校では、人間としての生き方についての自覚を深め、主体的に道德的实践力を身に付けていかなければならない。また、道德の時間では、人間として生きていく上で、自分がかけがえのない存在として大切にされ、頼りにされていることを実感でき、自己存在感と自己実現の喜びを味わえる生き方ができる力、人間としてよりよく生きていく道德的实践力が育成されなければならない。

では、道德の時間がどのようなものになれば、人間としての生き方についての自覚を深め、主体的に道德的实践力を身に付けていくことができるのだろうか。道德の時間において、生徒は資料や話し合いをとおして、自分の生き方を考えたり、自分の考えと他の人の考えを突き合わせたりしている。それにより、自分自身と対話し、自分自身の価値観を確認したり、見直したりしている。つまりその過程において、あらためて自分の生き方を見つめ新たな考えが生まれ、生徒の心が揺れ動くことにより、道德的価値をより深く自覚するのである。そこで、道德的価値と自分自身の生き方との具体的なつながりを見だし、学んだ価値観を自分の生き方に反映させようとする意欲や態度が育ったときに、道德の時間が心に響くものになると考える。このことから、道德の時間が、生徒の心を揺さぶり、人間としての生き方や在り方について深く考えさせられる「心に響く」ものであってこそ、目指す道德性を育むことができる。

以上のことから、本研究では、「心に響く道德の時間」を「道德の時間の資料や話し合いをとおして、心が揺さぶられ、道德的価値の自覚を深め、これからの生き方への指針を見いだすことのできる時間」ととらえることとする。

(2) 心に響く道德の時間の指導の意義

中学生の時期における道德性の発達には、大きな可能性を秘めており、その発達を促すことは極めて重要である。また、中学生の時期は、心の内で人間の生き方への関心が大きくなり、自分の人生をよりよく生きたいという願いが強くなっていくときでもある。特に価値観の多様化した現代に生きる生徒たちは、多様なことに興味を抱き、ものごとの受け止め方や考え方も千差万別である。そして、様々な葛藤や経験の中で、自己の心の揺れを感じながらも自分を見つめ、自分のよりよい生き方を模索しているのである。

道德の時間は、道德的価値が真に大切なものであるという自覚を深めさせ、自分が社会でどのように生きていくべきかを真剣に考えさせるものでなければならない。だからこそ、「心に響く道德の時間」の指導は意義があるものと考えられる。

本研究では、中学校の「心に響く道德の時間」において育った生徒の姿を「自分の心に道德的価値を受け止め、これからの生き方をつくりあげようとする思いをもつ生徒」ととらえることとする。そして、心に響く道德の時間で育てる力と生徒の姿を【表1】のように考え、研究を進めるものとする。

【表1】心に響く道德の時間で育てる力と生徒の姿

この三つの育てる力は、「把握する力」と「共感する力」が基となり、「発展させる力」に結び付く

育てる力	生徒の姿
把握する力	自己の体験や経験を基に、道德的価値をとらえようとしている
共感する力	資料や友達の考え方に共感し、道德的価値をより深く自覚している
発展させる力	道德的価値を再構成し、これからの自己の生き方を見いだしている

と考える。

(3) 生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法の工夫をすることの意義

生徒一人一人の価値意識というものは、生活経験に裏付けされたものである。そこで、道德の時間においては、生徒の心の状態を様々な方法により把握し、指導していくことが重要となる。そのことにより、道德の時間が生徒にとってより身近なものとなり、生徒は資料に描かれた内容と自分自身とを重ね合わせ、自分自身の問題として考えることができる。

道德の時間の指導過程とは、生徒がねらいの根底にある道德的価値について内面的な自覚を深めていくための指導の手順を示すものである。すなわち、それは、生徒が望ましい人間としての生き方を追求し、道德的価値についての見方や考え方を深めていく過程である。そこで、道德の時間を心に響くものとしていくためには、生徒の実態をよく把握し、生徒の悩みや心の揺れ、学級や学校生活における課題などを取り上げ、生徒の考えや意識の流れを大切にできるように、指導過程を工夫することが必要である。

また、生徒がより興味をもって授業に取り組み、ねらいとする道德的価値を深めていくには、生徒の実態に応じて、指導法を工夫することが必要である。資料の提示の仕方、発問構成の工夫など、生徒の実態に応じ、いくつかの指導法を組み合わせながら指導過程を作成することが大切となる。

以上のことから、生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法の工夫は、心に響く道德の時間を展開する上で、意義あることと考える。

2 心に響く道德の時間の指導に関する基本構想

(1) 生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法の工夫と進め方

本研究では、生徒の「価値意識」を道德の時間において指導する価値項目についての「道德的価値に対する意識」とし、「生活の実態」をその価値項目に関する「実生活における行動様式」ととらえることとした。そして、道德アンケートにより、学級が【表2】のどのタイプの傾向をもつかを把握す

ることとした。生徒の価値意識や生活の実態は、一人一人異なり、多種多様なもの

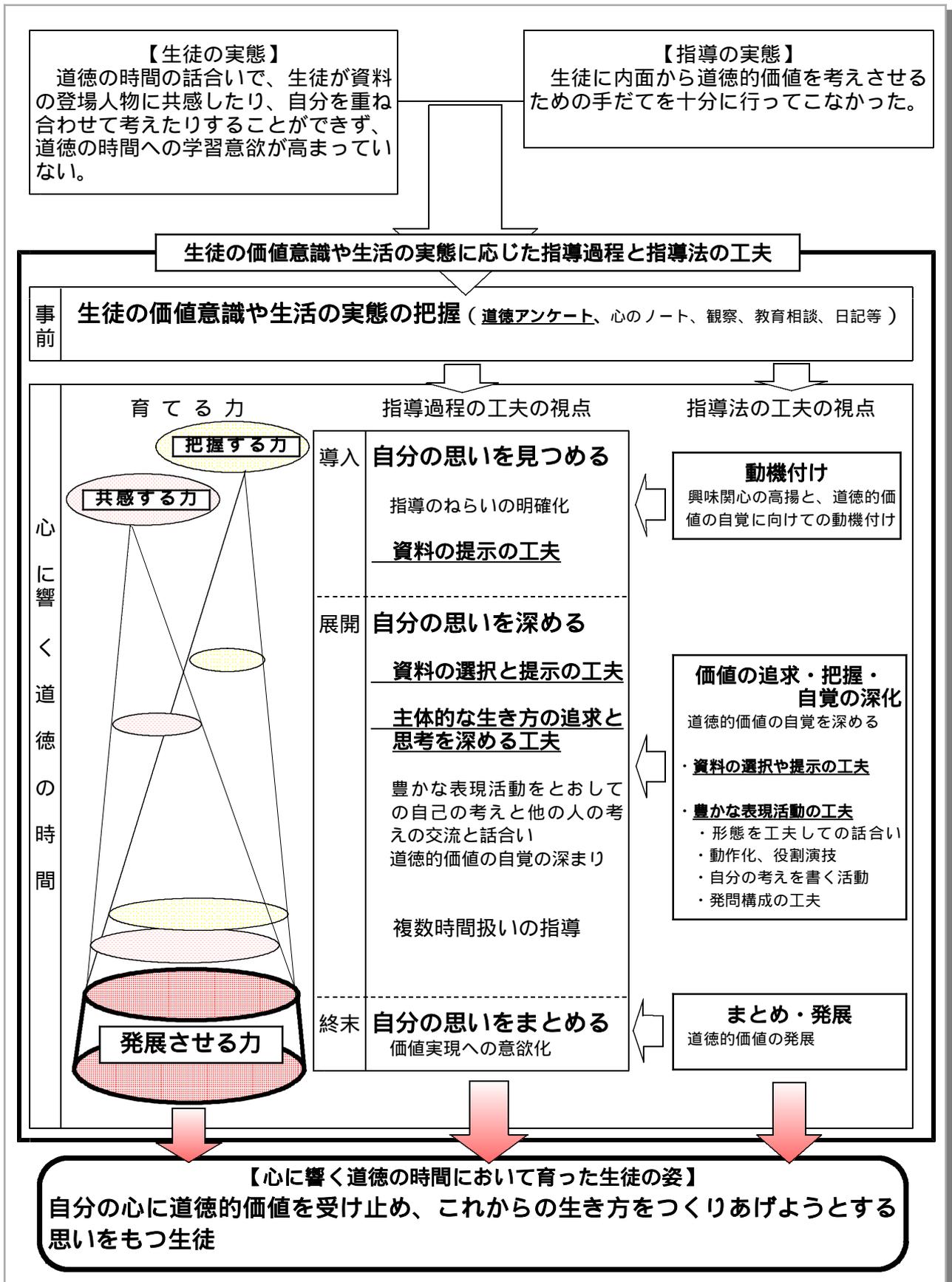
学級集団のタイプ	価値意識	生活の実態
タイプ	育っている	実生活において、価値意識にそくした行動ができる
タイプ	育っている	実生活において、価値意識にそくした行動ができない
タイプ	育っていない	実生活において、価値意識とは関係なく行動のみができる
タイプ	育っていない	実生活において、価値意識にそくした行動もできない

のであるが、生徒の価値意識や生活の実態が、学級としてどのような傾向にあるかをとらえ、指導に生かす必要がある。

そこで、生徒の価値意識や生活の実態に応じた「心に響く道德の時間」とするために、指導する価値項目において、学級の傾向のタイプを把握し、実際の生徒の様子を加味しながら、道德的価値の自覚をどのように深めるかを意識し、「話し合い」と「役割演技」を取り入れた指導過程を作成することとした。また、「資料の選択や提示の仕方の工夫」と「豊かな表現活動の工夫」を指導法の工夫として図ることとした。

(2) 心に響く道德の時間の指導に関する基本構想図

これまで述べてきたことから、心に響く道德の時間の指導に関する基本構想図を【図1】のように作成した。



【図1】心に響く道德の時間の指導に関する基本構想図

3 心に響く道徳の時間の指導に関する手だての試案

(1) 生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程や指導法の実態に応じた心に響く道徳の時間の手だての試案作成のための視点

生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法の工夫をとおして、心に響く道徳の時間の手だての試案を作成するにあたって、基本構想をふまえ、手だての試案作成の視点について次のように考えた。

<手だての試案作成のための視点>

指導する価値項目において、生徒の価値意識や生活の実態を事前に把握し、学級集団の傾向を把握し、学級をタイプに分けること。

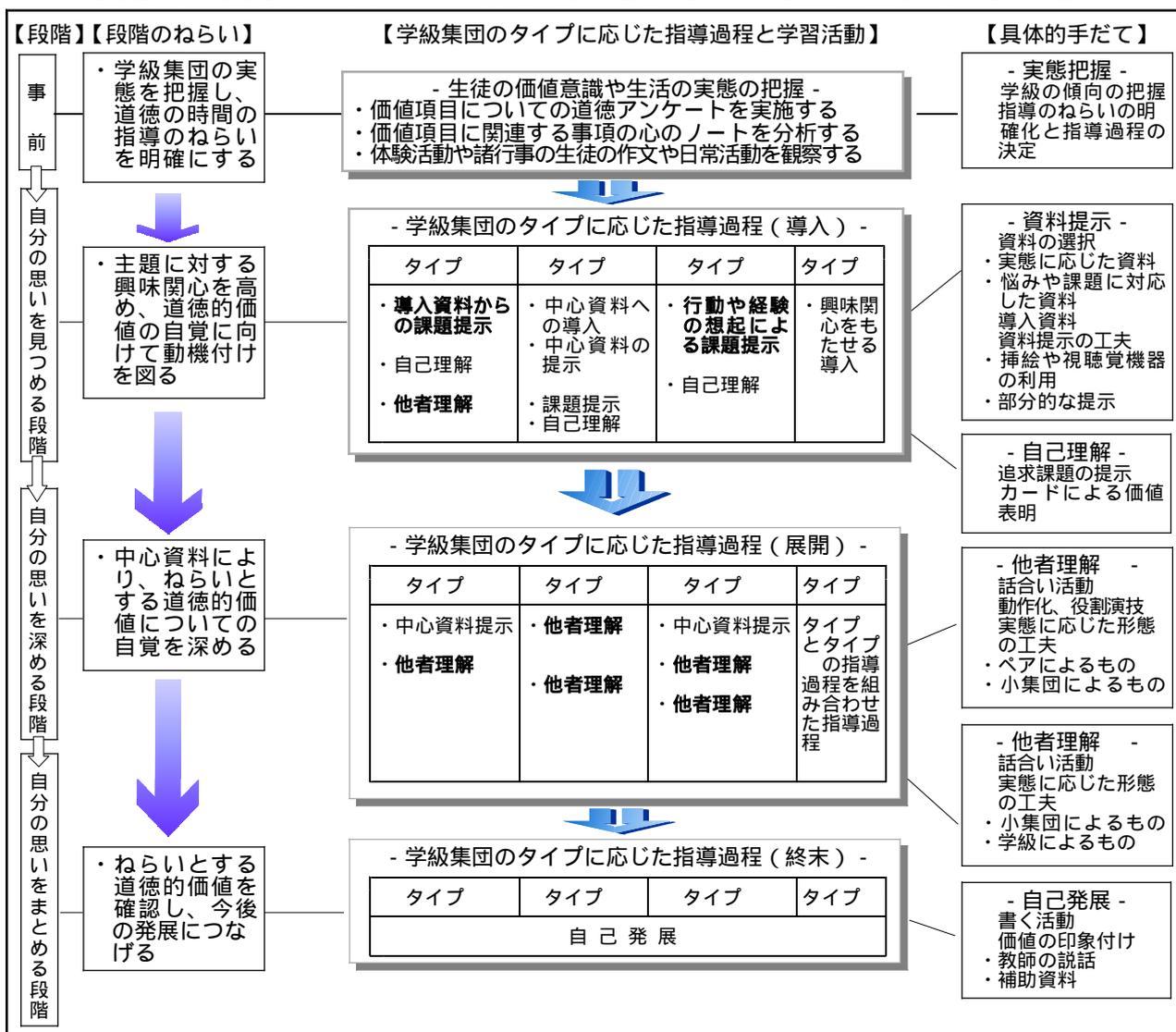
学級のタイプに応じて、道徳的価値の自覚をどのように深めていくかを意識した指導過程を作成すること。

生徒の価値意識や生活の実態に応じて、資料を選択し、資料の状況を十分に理解できる資料提示の工夫の手だてを示すこと。

生徒の価値意識や生活の実態に応じて、どのような豊かな表現活動をどのような形態で取り入れていくかを具体的に示すこと。

(2) 生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法を工夫した心に響く道徳の時間の手だての試案

基本構想に基づき、手だての試案作成のための視点に配慮し、生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法を工夫した心に響く道徳の時間の手だての試案を【図2】に示した。



【図2】 生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法を工夫した心に響く道徳の時間の手だての試案

4 心に響く道徳の時間の手だての試案に基づく手だての試案に基づく指導実践計画の立案

(1) 心に響く道徳の時間の指導実践計画

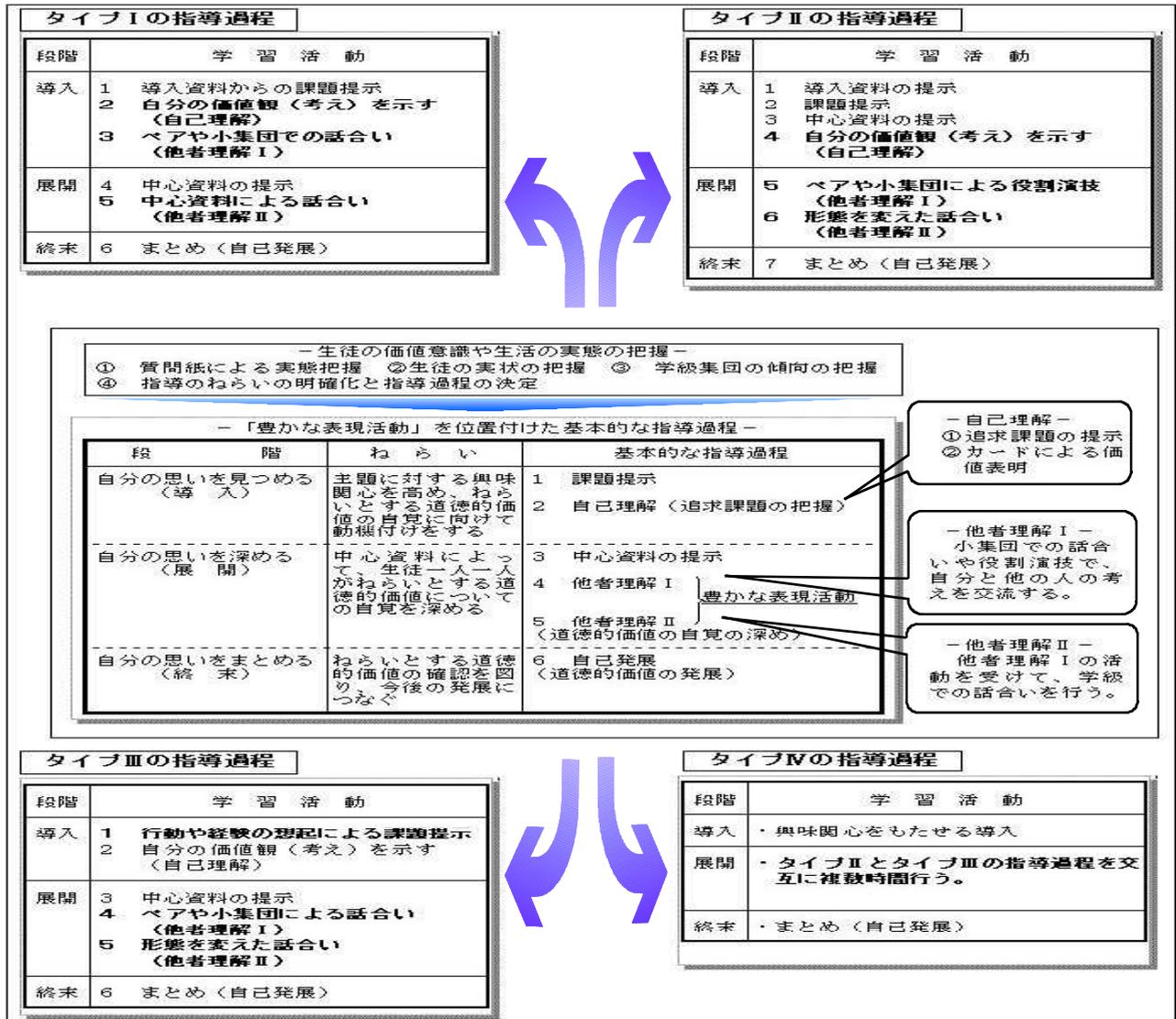
手だての試案に基づいて、指導実践計画を【表3】のように作成した。

【表3】指導実践計画

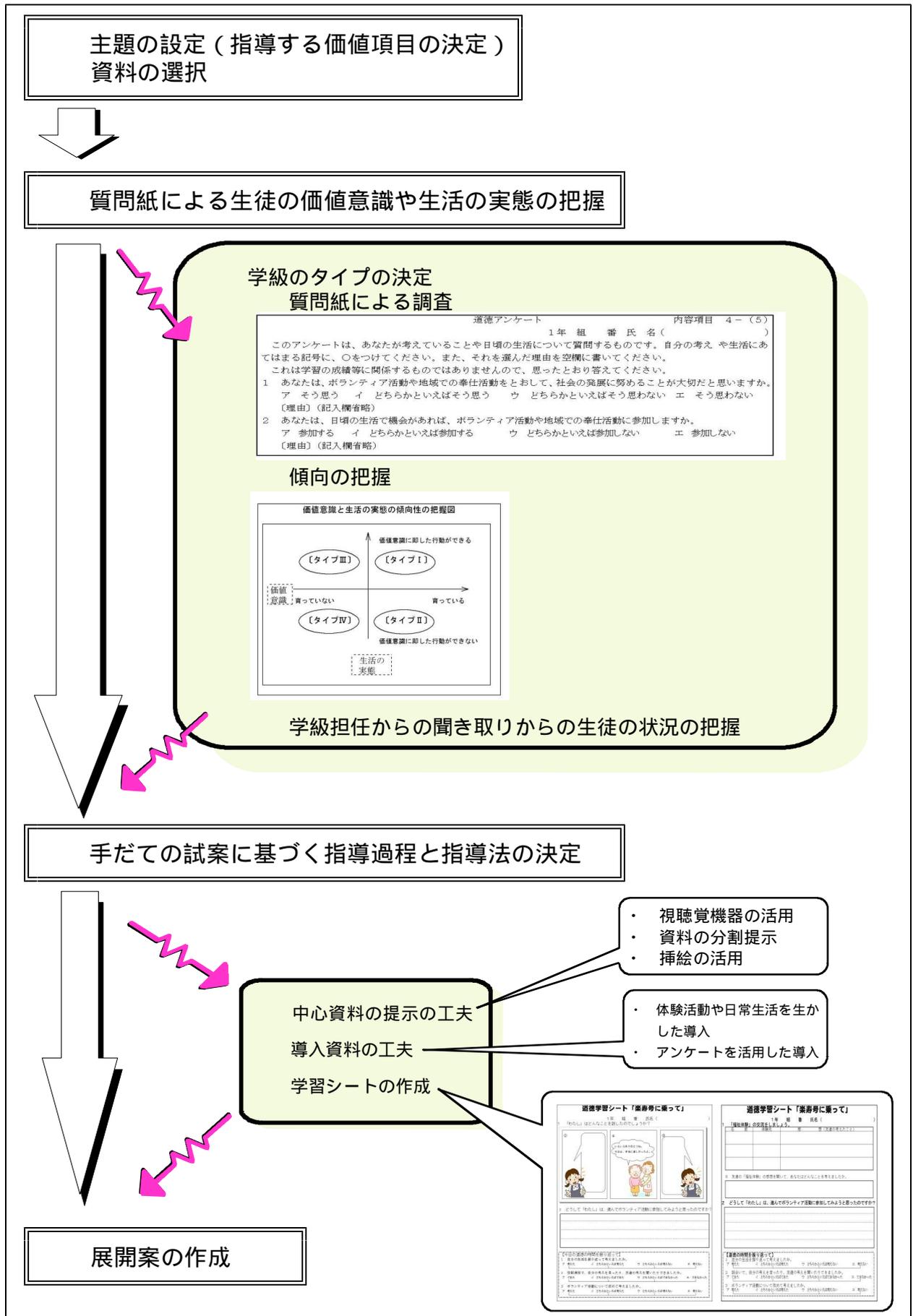
指導実践期間・対象	指導実践の流れ
<指導実践期間> 平成16年9月7日(木)～ 10月8日(金)	・構成要素に関わる事前調査並びに生徒の価値意識や生活の実態を把握する調査
<指導実践対象> 大迫町立大迫中学校 1年A・B組	・指導実践 それぞれの学級の生徒の実態に応じて、手だての試案に基づいた指導過程を作成し、指導実践を行う。
<指導実践時間> 各学級3時間 合計6時間	・構成要素にかかわる事後調査並びに手だてに関する意識の状況をみるための調査

(2) 心に響く道徳の時間の展開案の作成

心に響く道徳の時間の手だての試案に基づき、学級のタイプ別の指導過程を【図3】のようにまとめた。また、生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法の決定までの流れを7頁【図4】のように作成した。8頁【資料1】に示すのは、指導実践1における、それぞれの学級の展開案である。他の展開案についても、これに準じて作成した。



【図3】生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法を工夫した心に響く道徳の時間



【図4】 生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法の決定までの流れ

5 検証計画と指導実践の概要

(1) 検証計画並びに調査計画の概要

検証計画を【表4】のように作成し、心に響く道徳の時間の構成要素である「把握する力」「共感する力」「発展させる力」の三つの育てる力の意識の変容状況、並びに三つの力の育成状況を見取ることとする。また、手だてに関する意識の状況を見るための調査計画を【表5】のように作成し、手だてが生徒並びに学級担任にどのように受け止められたかを把握することとする。そして、これらの分析と考察により、手だての有効性を検討することとする。(調査紙は【補充資料1】【補充資料2】を参照)

また、生徒の姿を見取る分析基準を【表6】のように作成し、構成要素である三つの力の育成状況をとらえ、授業記録の分析に活用することとする。

【表4】検証計画

検証項目	検証内容	検証方法	処理・解釈の方法
心に響く道徳の時間で育てる力の状況	<構成要素> ・把握する力 ・共感する力 ・発展させる力 の変容状況	・質問紙法(評定尺度法)により指導実践の事前事後に実施	² 検定により意識の変容状況を分析し考察する。
	<構成要素> ・把握する力 ・共感する力 ・発展させる力 の育成状況	授業記録 道徳ワークシートの記述内容と自己評価項目	授業における、生徒の発言や話し合い、役割演技の記録、ワークシートの記述と自己評価項目により、別に定める分析基準に基づいて、分析考察する。

【表5】手だてに関する意識の状況を見るための調査計画

調査項目	調査内容	調査方法	処理・解釈の方法
手だてに関する意識の状況	生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法を工夫した心に響く道徳の時間の意識の状況	・評定尺度及び自由記述の質問紙法による意識調査を指導実践後に実施	・プラス反応、マイナス反応の割合と生徒の記述内容により分析する。
		・自由記述の質問紙法により、指導実践後に実施	・学級担任の記述内容により分析する。

【表6】生徒の姿を見取る分析基準

構成要素	見取りの視点	具体的な生徒の姿
把握する力	自分の体験や経験を基に、資料の道徳的価値をとらえている。	A 今までの自分の体験や経験を振り返りながら、道徳的価値について考え、話したり書いたりしている。
		B 道徳的価値に気づき、話したり書いたりしている。
		C 道徳的価値に気づかず、話したり書いたりしている。
共感する力	資料の主人公の心の動きに共感している。	A 主人公の心の動きを把握し、自分の考えと照らしながら、共感的に考え、話したり書いたりしている。
		B 主人公の心の動きを把握し、話したり書いたりしている。
		C 主人公の心の動きを把握せず、批判的に話したり書いたりしている。
	話し合い、役割演技の中で、友達のを考えを受け入れている。	A 話し合いや役割演技の中で、友達のを考えを受け入れ、改めて、自分の考えを話したり書いたりしている。
		B 話し合いや役割演技の中で、友達のを考えを受け入れ、話したり書いたりしている。
		C 話し合いや役割演技の中で、自分の考えのみにとらわれ、話したり書いたりしている。
発展させる力	学んだ道徳的価値を改めて考え、自分の生き方に反映させようとしている。	A 道徳的価値を改めて考えたことや、自分が目指そうとする生き方や考え方を、書いたり話したりしている。
		B 道徳的価値について、改めて考えたことを、話したり書いたりしている。
		C 資料の感想のみを、話したり書いたりしている。

(2) 指導実践の概要

指導実践から、タイプ の指導過程に基づく実践を【資料2】【資料4】【資料6】に、タイプ の指導過程に基づく実践を【資料3】に、タイプ の指導過程に基づく実践を【資料5】に、抜粋して示す。
(指導実践の道徳アンケートは【補充資料3】、指導展開案と道徳学習シートは【補充資料4】を参照)

【資料2】タイプ の指導過程に基づいた指導実践 1

対象	1年A組	ねらい	高齢者に対して、思いやりと敬愛の心をもって接するとともに、進んで
資料	楽寿号に乗って		人々のために尽くそうとする意欲や態度を育てる。

段階	主な学習活動と指導上の留意点
導入 20分	<p>1 「福祉体験」の気持ちを振り返る</p> <p>追求課題提示</p> <p>ボランティア活動のあり方について考えよう</p> <p>「福祉体験」に取り組んで、どんな感想をもったか発表する。</p> <p>福祉体験の写真 による動機付け</p> <p>「福祉体験」に取り組んだときの自分の気持ちを振り返る。</p> <p>自分の気持ちをカードで表す(自己理解)</p> <p>友達と「福祉体験」の感想を交流する。</p> <p>友達との意見交流(他者理解)</p>
展開 25分	<p>2 資料「楽寿号に乗って」を読んで話し合う</p> <p>資料を使つての話合い(他者理解)</p> <p>「わたし」は楽寿園のボランティア活動に参加して、お年寄りについて、どんなことを考えたか。</p> <p>「わたし」「これからは進んでボランティア活動に参加したい」と考えたのはなぜだろうか。</p> <p>3 ボランティア活動や奉仕活動に参加するときの心構えについて考える</p>
終末 5分	4 本時のまとめ

自分の思いを深める

自分たちの体験を振り返る(自己理解、他者理解)

T: 先週の福祉体験の感想を聞きます。自分はどこに行き、どんな感想をもったかを話して下さい。

S 1: 「自分は早池峰の里」に行きました。車椅子掃除はとてたいへんでした。食事の介護も分からなくて、難しかったけれど、よい体験ができました。

S 2: 早池峰学童クラブに行きました。勉強を教えるのがたいへんでしたが、子ども達といっしょに遊んだのが、すごく楽しかったです。

T: 自分の福祉体験を振り返って、楽しさとか充実感があつた人は赤いカードを、ちょっとたいへんだったという人は青いカードを出して下さい。

- 悩みながらも自分の思いを提示する -

T: 近くの人たちで、「自分はこちらに行って、こんな感想だった。」と発表し合い、交流して下さい。

- 小集団での交流活動 -

T: 友達の感想を聞いて、感じたことを発表して下さい。

S 3: どんな体験先でも、たいへんなのはみんな同じだと思います。

S 4: みんなたいへんだったと思うが、とてもよい経験になったと思います。

自分の思いを深める

資料による話合い(他者理解)

T: どうして「わたし」は、これからは進んでボランティア活動に参加しようと思ったのですか?

S 5: 老人ホームへの訪問が楽しく、老人の方々に、楽しくすごしてほしいと思ったからだと思います。

S 6: 実際におばあさん達の喜ぶ姿を見て、ボランティア活動の楽しさや充実感を知ったからだと思いますし、また今度喜んでほしいと思ったからだと思います。



小集団で福祉体験を交流

授業の様子

指導実践1では、奉仕の精神について、価値意識と生活の実態を生徒の実態を把握した。道徳アンケートの結果、ボランティア活動を大切だと感じ、参加について意欲的な回答が多かった。そこで、タイプの指導過程で実践を試みた。

総合的な学習の時間に取り組んだ福祉体験についての活動の写真を導入の資料として用いた。自分自身が活動で感じたことを想起し、感想を交流することで、課題意識をもって授業に入ることができた。

また、小集団の話合いから、自分と似た気持ちをもった人、自分と違う気持ちをもった人など、それぞれの感じ方にふれ合うことができた。このような活動から、本時で取り扱う価値に対する自分の考えを明らかにできたと考えられる。

資料による話合いでは、資料から学びとったことばかりでなく、自分の生活を振り返りながら考えることができ、学習シートの自己評価では、自分の生活について振り返ることができた生徒が多く、道徳的価値と自分の在り方を見つめることができたと考えられる。

【資料3】タイプ の指導過程に基づいた指導実践1

対象	1年B組	ねらい	高齢者に対して、思いやりと敬愛の心をもって接するとともに、進んで
資料	楽寿号に乗って		人々のために尽くそうとする意欲や態度を育てる。

段階	主な学習活動と指導上の留意点
導入 15分	1 「福祉体験」の気持ちを振り返る 「福祉体験」の感想発表をする。 福祉体験の写真による動機付け 追求課題提示 ボランティア活動のあり方について考えよう
	2 「楽寿号に乗って」を読む 資料を読みながら、自分の気持ちについて カードを使って示す（自己理解）
展開 30分	3 資料「楽寿号に乗って」について話し合う 「わたし」は楽寿園のボランティア活動に参加し、お年寄りについてどんなことを考えたか 「わたし」は、楽寿園での活動を終え帰る時、お年寄りにどんな声をかけて帰るか、役割演技をする。 役割演技（他者理解） ペアでの取り組み 全体での発表 「わたし」が「これからは進んでボランティア活動に参加したい」と考えたのはなぜだろうか 形態を変えて話し合い（他者理解）
	4 ボランティア活動や奉仕活動に参加するときの心構えについて考える
終末 5分	5 本時のまとめ

自分
の
思
い
を
深
め
る

小集団による役割演技（他者理解）
T：「わたし」は老人ホーム「楽寿園」から帰るときに、おばあちゃんにどんな言葉をかけて別れたのかな？プリントにセリフを入れて、友達と再現してみてください。
- 2～3人のグループでの練習 -
- 前に出たの代表の役割演技 -
S1：バイバイ、おばあちゃん。また、今度来るからね。
S2：今日は、本当に楽しかったよ。
S1：おばあちゃん、長生きしてね。
T：どうして「バイバイ、おばあちゃん。また、今度来るからね。」といましたか。
S1：最初は、不安だったけど、安心したから。また、今度老人ホームに来てみたいと思ったからです。

自分
の
思
い
を
深
め
る

学級による話し合い（他者理解）
T：どうして「わたし」は、これからは進んでボランティア活動に参加しようと思ったのですか？
S3：自然にお年寄りに手をかけてやれるようになりたいと思ったからです。
S4：相手にも喜んでもらえ、自分も楽しかったから、これからは進んでボランティア活動に参加しようと思ったからです。
S5：お年寄りといっしょに笑顔をつくりたいと思ったからです。
S6：ボランティア活動をとおして、自分が介護をするということにあっていたと思ったからだと思います。



代表による役割演技の場面

授業の様子

指導実践1では、奉仕の精神について、価値意識と生活の実態を生徒の実態を把握した。道徳アンケートの結果、ボランティア活動を大切だと感じているが、参加については否定的な回答が多かった。そこで、タイプ の指導過程で実践を試みた。

他者理解 として、「老人ホームでの訪問を終えて、どのような声をかけて帰るか」という場面を設定した役割演技に取り組んだ。実際にどのような気持ちで、どんな声をお年寄りにかけるかということをおして、思いやりの心をもって接することをねらいとした。はじめての役割演技だったので、照れながら取り組んでいたが、少ない言葉ながらも、優しさをもって接することを意識して役割演技を行っていた。

展開の後半の発問では、書く活動を取り入れながら、「わたし」の気持ちになってボランティア活動について考えさせ、意見を交流した。役割演技の後の話し合いだったので、主人公の気持ちによりそった内容の多様な考えを発表することができ、ボランティア活動について改めて考えることができたと思われる。役割演技を行ったことにより、道徳的価値の自覚を深めることができたと考えられる。

【資料4】タイプ の指導過程に基づいた指導実践2

対象	1年A, B組	ねらい	自主的に考え、誠実に行動して、その結果について責任をもとうとする態度を育てる。
資料	裏庭でのできごと		

段階	主な学習活動と指導上の留意点
導入 10分	1 自分たちの生活を振り返る 生活アンケートの提示 追求課題提示 自分で考え、責任をもって行動することとは
展開 35分	2 自分が失敗をしたときの行動を考え、自分の考えを友達と交流する 自分の気持ちを拳手であらわす(自己理解) 友達とペアでの話し合い(他者理解)
	3 資料「裏庭でのできごと」を視聴して話し合う 資料を視聴しての感想を交流する。 雄一の言動について考える。 大輔の言動について考える。 健二の言動について考える。 どうして健二は悩んだのだろうか。 自分の気持ちを踏まえた形態を変えて話し合い(他者理解)
終末 5分	4 本時のまとめ

< 1年B組の指導実践より >

自分の思いを見つめる

生活アンケートの振り返り (自己理解)(他者理解)

T: (生活アンケート(「自分が失敗したとき、どうするか?」)の提示後)自分はどれに該当しますか?手をあげてください。

T:自分はこういう理由から、何番だということを、隣の人と交流してください。

-ペアで、自分の考え方と理由を交流する-

T:隣の人と同じ人、違う人、それぞれいると思います。自分のことを考えながら、「自分の行動に責任をもつには」ということを考えていきます。

< 1年A組の指導実践より >

自分の思いを深める

学級による話し合い(他者理解)

T:資料の感想を聞きたいと思います。

S1:大輔が球技大会の打ち合わせに出ないで、裏庭にサッカーをしようと言ったのが問題があると思います。

S2:健二は、自分でガラスを割ったことをごまかさずによくいったと思います。

S3:雄一は最初に謝ったから、偉いと思いました。

S4:健二は正直に言ったので、よいと思いました。

T:それでは、登場人物の言動について考えていきたいと思います。

-多様な感想から話し合いの方向性を導き出す-

< 1年B組の指導実践より >

自分の思いを深める

T:どうして健二は必死に悩んだのですか。

S1:雄一だけのせいになって、仲が悪くなってしまい、どうすればいいか悩んでいるからです。

S2:自分ではガラスを割ってしまったのに、それを雄一のせいにしてしまったことと、大輔に先生に言わなくてもいいんだと言われ、その結果悩んでしまったと思います。

S3:大事な友達である雄一を傷つけたくなかったからだと思います。

T:結果的には謝りに行ったけれど、ここでみんなに考えてほしいのですが、悩めば責任をとったことになりませんか。

S4:ならないと思います。やはり、謝りに行かなければならないと思います。

S5:悩めば責任をとったことになるわけではないけれど、考えることは大切だと思います。

S6:一番よかったのは、悩む前に謝ることだと思います。



学級での話し合いの様子

授業の様子

指導実践2では、自主・自立、誠実さについて、価値意識と生活の実態を生徒の実態を把握した。道徳アンケートの結果、2つの学級とともに、価値意識も生活の実態も高いと判断された。そこで、A, B組ともにタイプ の指導過程による実践を行った。

生活アンケートを使った導入資料を用い、自分の生活について振り返った後、ペアでの意見交流を行った。他者理解 では、活発に意見を交流し合い、生徒の感想発表の中から、話し合いの観点を構築することができた。資料の登場人物の言動について、共感的な意見や批判的な意見等、多様な考えを出し合うことができた。そして、主人公の葛藤する気持ちを、共感的に受け止めることができ、改めて誠実に責任をもって行動することについて、それぞれの考えを深めることができたと思われる。

また、道徳的価値をさらに深める発問に対しても、真剣に考え、自分なりの考え方を述べ合うことができた。資料、指導過程ともに、生徒の実態に合致した実践となった。

【資料5】タイプ の指導過程に基づいた指導実践3

対象	1年A組	ねらい	いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、個性や立場を尊重
資料	茂の悩み		することのできる判断力を育てる。

段階	主な学習活動と指導上の留意点
導入 15分	1 導入資料「心のノート」の提示 2 種類の絵に見えることを確認する 追求課題提示 ものの見方、考え方について考える
展開 30分	2 資料「茂の悩み」を読む 資料を読んだ後、茂は「正夫を使うべきか」「正夫を使わないべきか」について カードを使って自分の考えを示す（自己理解）
	3 茂の言動について話合う 1 年生に意見を言われたときの茂の気持ちを考える。 2 年生の言葉を聞いたときの茂の気持ちを考える。 茂は浩二達は何と言ったかを考える。 主人公の行動を生活班で考え、役割演技を行う（他者理解） 小集団での取り組み 全体での発表
	正夫にシュートを教える稔を見たときと茂の気持ちを考える。 学習シートを使った、形態を変えての話し合い（他者理解）
4 自分の生活を振り返る	
終末 5分	5 本時のまとめ

自分の思いを見つめる

資料を読んで自分の考えを示す（自己理解）

T：資料の感想を発表してもらいます。
S1：正夫をはずすことしか頭にない、浩二と信一郎はひどいと思った。
S2：いっしょに練習していた稔はすごいと思った。
S3：茂はみんなに声をかけたり、正夫が稔と一生懸命練習しているとき、やめるとは声をかけなかったから、リーダーとしてかっこよかったと思う。
T：みんなが茂だったら、正夫を外しますか、外しませんか、どちらですか。
-カードで自分の考えを表現させ、考えを交流-
S4：頑張っているので外しません。
S5：一生懸命努力しているのではありません。
S6：部のことと、正夫のことを考え、外しません。

自分の思いを深める

小集団による役割演技(他者理解)

T：今から、吹き出しのあるシートを班に渡します。この資料の続きを班で考えてもらいます。浩二、信一郎、稔にセリフを付けました。その後、茂が何を言ったかを班で考えてください。班ごとに発表してもらいます。班集体で取りくんでください。
-時間をとり、それぞれの班に入り支援をする-
T：それでは、班ごとをお願いします。
S7：なあ、正夫にあのこと言ってくれたか。
S8：まだだよ。 S9：どうしてだよ。
S10：なんだい、何を相談しているんだよ。
S11：森先生に、正夫のこと直接相談してみることにするよ。
T：どうして、先生に相談することにしたんですか。
S11：正夫は、頑張ってる練習しているのだけれど、浩二や信一郎、そして1年生の意見もあるので、先生に相談して決めてもらおうと思ったからです。

浩二「なあ、正夫にあのこと言ってくれたか。」
茂「まだだよ・・・。」
信一郎「どうしてだよ！」
稔「なんだい、何を相談しているんだよ。」
茂「??????」
班で役割を決め、取り組んでみよう！

小集団による役割演技で使用したシート

授業の様子

指導実践3では、自他の尊重について、価値意識と生活の実態を把握した。道徳アンケートの結果、意識が高く行動もともなっている生徒と、意識が低く行動もともなわない生徒に大別された。そこで、タイプ の指導過程による役割演技を中心とした実践を行った。

他者理解 として、主人公がその後どのような言動をするかという場面を設定した役割演技を、生活班を使った小集団で取り組んだ。主人公が実際に他の部員とどのようなやりとりをするかということを考えることをとおして、いろいろな意見を基に、実際にどのような判断をするかということのをねらいとした。小集団でいろいろな考え方を出しながら、生徒達の現実に即した考えによる役割演技を行うことができた。

展開の後半では、学習シートを用い、改めて主人公の気持ちの変化を考えさせ、自分たちの生活について振り返らせた。それにより、主人公の気持ちの葛藤をとらえることができ、実際に自分だったらどのようにするかを改めて考え、主人公の気持ちによりそいながら、自分なりの考え方をもつことができたと思われる。

本学級では、生徒の実態から、本研究で提案しているタイプ の指導過程を組み、同じ主題で話し合いを中心とした指導過程で連続して実践を試みるのが、さらに道徳的実践力高めることにつながると思われる。（指導実践の時間の都合上、今回は話し合いを中心とした指導過程は行わなかった。）

【資料6】タイプ の指導過程に基づいた指導実践3

対象	1年B組	ねらい	いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、個性や立場を尊重することのできる判断力を育てる。
資料	茂の悩み		

段階	主な学習活動と指導上の留意点
導入 15分	1 自分たちの生活を振り返る 「心のノート」の絵について考える。 追求課題提示 ものの見方、考え方について考える 生活アンケートについて考える。 自分の考えを挙手で示す(自己理解) 自分の経験を振り返り交流する。 友達との意見交流(他者理解)
展開 30分	2 資料「茂の悩み」を読んで話し合う 資料を読んだ感想を交流する。 1年生に意見を言われたときの茂の気持ちを考える。 2年生の言葉を聞いたときの茂の気持ちを考える。 正夫にシュートを教える稔を見たときの茂の気持ちを考える。 形態を変えて話し合い(他者理解)
終末 5分	3 改めて自分の生活を振り返る 4 本時のまとめ

自分の思いを振り返り(自己理解)(他者理解)

T: みなさんは、「自分と違う考えに出会ったときどうしますか」という生活アンケートに「他の人の意見を参考にしておく」とほとんどの人が答えていますが、「心のノート」56～57頁のように、他人の立場とか考えを理解していなかったということはありますか。そういう経験のある人は手を挙げてください。

- 1人だけが挙手をする -
T: 本当にみんなありませんか。どうですか。
S1: ありません。
S2: ないということはありません。
S3: 気付かないでいると思います。
S4: あります。

学級による話し合い(他者理解)

T: 正夫と稔が一生懸命に練習をしている姿を見たとき、茂は何を考えて帰ってきたのですか。

- 学習シートに記入し、発表する -
S5: みんなに迷惑をかけないために練習を頑張っていたのだから、外すかどうか迷ったと思います。
S6: 一生懸命練習しているのだけれど、外すことを言った方がよかったのかと迷ったと思います。
S7: 正夫は練習をしているのだから、これからは教えていけばいいのではと思った。
T: 正夫と稔の姿を見て、外そうという気持ちはどうなりましたか。
- Tは、板書の心情円盤を動かして見せる -
S: 迷った。外さないという気持ちに動いた。



本時で使用した板書例

授業の様子

指導実践3では、自他の尊重について、価値意識と生活の実態を把握した。道徳アンケートの結果、意識が高く行動もともなっていると判断した。そこで、タイプ の指導過程による実践を行った。

「心のノート」での導入から、生活アンケートによって自分の生活を振り返り、自分の考えを確認した。さらに「心のノート」を用いて追求課題について自分たちの経験を振り返り、考えを交流したが、具体的な発言を引き出すことができなかった。

展開では、板書を効果的に使い、主人公の葛藤する気持ちを追いながら、どのような場面でどんなことを考えたか、主人公の気持ちの変容をとらえていった。生徒は、それぞれの意見に耳を傾けながら、主人公がどのような行動をとるべきかについて意見を交流しあった。主人公の気持ちを考えながら、いろいろな見方に気付かせ、どのような行動をとるべきかを考えさせた。展開の後段では、自己を振り返らせ、1時間で学んだことを学習シートに記入し、これからの生活につなげられるようにすることができた。

自己の立場を明確にし、話し合いを中心とする指導過程は、自らの考えを深めることができ、生徒の実態に合致したものであった。

6 指導実践の分析と考察

(1) 構成要素について

ア 構成要素の意識の変容状況について

心に響く道徳の時間で育てる、把握する力、共感する力、発展させる力の三つの力にかかわる生徒の意識の変容状況を、9頁【表4】の検証計画に基づき²検定によって【表7】のようにまとめた。その結果、「共感する力」「発展させる力」の項目の一つずつに有意差がみられた。

「把握する力」については、生徒の生活に身近な資料を用いて実践したことにより、単位時間の振り返りでは、自己の生活について振り返っている意識はあるものの、資料と自分の生活とを切り離して考えていたものと思われる。これは、道徳的価値の理解はできているものの、自己の生活と、道徳的価値を関連付けさせて考える意識を高めさせる手だての工夫の必要性があったものと思われる。

「共感する力」については、視聴覚資料の活用や、興味関心をもたせつつ資料の状況を理解できるような提示の工夫と、生徒の実態に合わせた指導過程に基づいた話合いや役割演技などの表現活動により、主人公に共感したり、主人公と自分を重ね合わせて考えるたりすることができたと思われる。それにより、道徳的価値の自覚ができたと考える。また、自分以外の人の考え方を受け入れることに関しては、授業中の話合いや役割演技を積極的に行うことができ、はじめから全体として意識が高かったために、有意差がみられなかったと思われる。

「発展させる力」については、生徒の実態に合わせた指導過程に基づいた話合いや役割演技の手だてにより、資料の主人公や友達の考えに共感し道徳的価値の自覚を深めることができた結果、今後の自分の生活に生かそうとする意識について有意差がみられたと思われる。しかし、今までの自分になかった考え方や気持ちの気づきについては、有意差がみられなかった。これは、展開後段での形態を変えての話合いにおいて、自分と自分以外の考えを交流させ、より一層自分の考えを深めさせるための手だての工夫が必要だったためと思われる。

イ 構成要素の育成状況について

授業記録並びに授業で用いた学習シートの記述や自己評価項目により、構成要素の育成状況について分析と考察を行った。

(ア) 「把握する力」について

授業記録から「把握する力」の育成状況について分析した。1年A組の指導実践1では、導入での自分たちの生活を振り返って話合う場面において、福祉体験での感想を交流し、10頁【資料2】のように、ボランティア活動の難しさや充実感を話合うことができた。

【表7】心に響く道徳の時間で育てる力の意識の変容状況

N=84 (単位:人)

設問構成	設問内容	事後		合計	χ^2 の値
		事前			
把握する力 1	道徳の時間に、資料を、今までの自分の生活と関連付けて考えますか。	+	28	7	35
		-	15	14	29
		合計	43	21	64
共感する力 2	道徳の時間に、資料の主人公の心の動きや行動に、自分を重ね合わせて考えますか。	+	32	3	35
		-	15	14	29
		合計	47	17	64
共感する力 3	道徳の時間に、話合い等で友達が述べたことを聞いて、いろいろな考え方を受け入れることができますか。	+	44	5	49
		-	13	2	15
		合計	57	7	64
発展させる力 4	道徳の時間に、話合い等をおして、今までの自分になかった考え方や気持ちに、気付くことができますか。	+	33	9	42
		-	11	11	22
		合計	44	20	64
発展させる力 5	道徳の時間に、考えたり、話合ったりしたことを、今後の自分の生活に生かそうと思えますか。	+	38	1	39
		-	12	13	25
		合計	50	14	64

【注】1 事前調査は9月7日、事後調査は10月8日に実施したものである。

【注】2 調査は四肢選択のア、イは+反応、ウ、エは-反応とし、ア、エを各々強い反応とした。

【注】3 χ^2 検定で用いた公式は次に示すとおりである。

$$b+c > 10 \text{ のとき、} \chi^2 = \frac{(b-c)^2}{b+c}$$

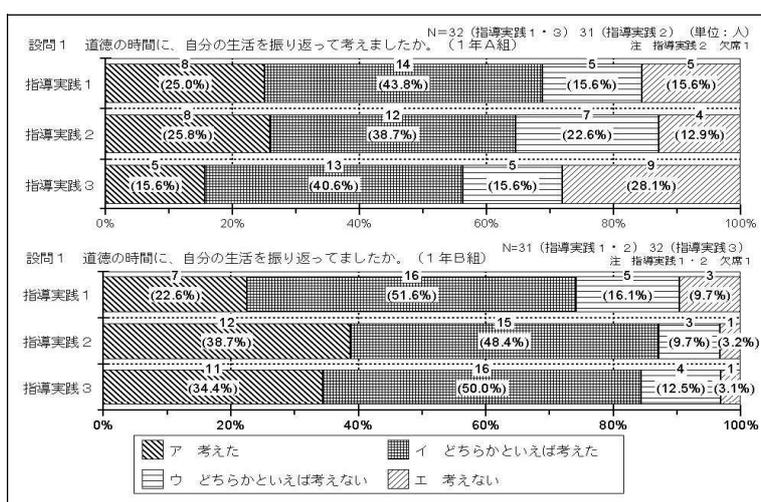
$$b+c \leq 10 \text{ のとき、} \chi^2 = \frac{(|b-c|-1)^2}{b+c} \quad (\text{イエーツの修正式})$$

$$b+c \leq 10 \text{ のとき、} \chi^2 = \frac{(|b-c|-1)^2}{b+c} \quad (\text{イエーツの修正式})$$

なお、bは+反応から-反応に変わった数、cは-反応から+反応に変わった数を表す。

【注】4 χ^2 の値の欄の*は、 χ^2 検定において有意水準5%で有意差があることを示す。

指導実践2では、どちらの学級でも、導入場面でアンケートから自分たちの生活を振り返ることで、自分の行動に責任をもつことの意味を考え、中心資料の感想を交流する際に、「健二は、ガラスを割ったことを、もっと早く言うべきではなかったのか。」「健二が、自分の失敗を最終的に言ったことは、とてもよいことだ。」など、登場人物の行動をとおして、追求すべき課題についての考えを出し合うことができた。



【図5】「把握する力」についての自己評価のまとめ

また、1年B組の指導実践3では、導入場面で、生活アンケートと「心のノート」を活用し、自分の生活を振り返らせ、追求すべき価値について考える場を設定した。しかし、自分の経験を踏まえた具体的な発言を引き出すことができなかった。

【図5】は、授業で用いた学習シートの自己評価項目1「道徳の時間に、自分の生活を振り返って考えましたか」ということについて、学級別にまとめたものである。

指導実践1では、どちらの学級でも生徒の福祉体験を導入資料として活用し、生徒に共通体験のときの気持ちを想起させた。特に、A組では、タイプ の指導過程により、小集団の話合いによる福祉体験の感想の共有化を手だてとして用いたことから、自分の生活を振り返ることについて肯定的反応が多かったと思われる。

指導実践2・3では、生徒の生活アンケートを導入場面で提示したことにより、自分達の生活と授業で追求する道徳的価値を結び付けることができたと考えられる。しかし、実際の授業場面では、資料に含まれる道徳的価値と自分の生活を結び付けた発言をなかなか引き出すことができなかった。それは、自分の生活と道徳的価値を結び付ける発問の工夫が不足していたことによるものと思われる。

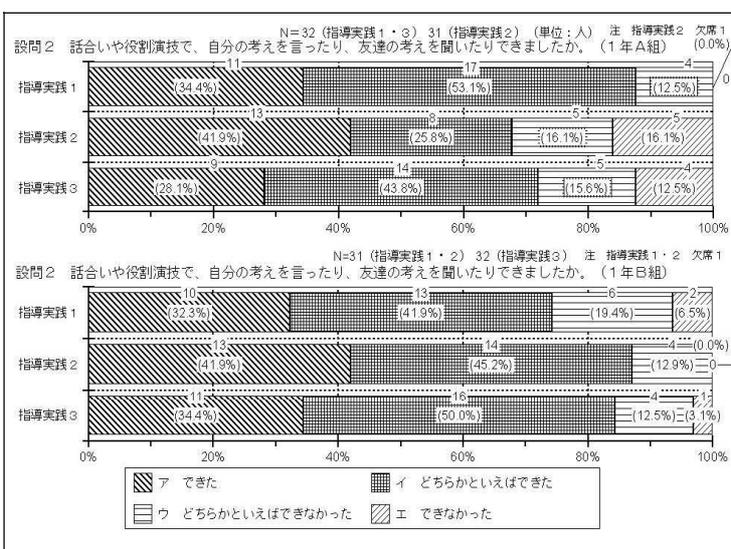
よって、生徒に追求すべき道徳的価値はとらえさせることができたものの、自分の生活と道徳的価値を結び付ける発問の工夫が必要だったと思われる。

(1) 「共感する力」について

授業記録から「共感する力」の育成状況について分析した。1年B組の、役割演技を手だての中心とした指導実践1では、11頁【資料3】のように、役割演技の後の発問の際に、「老人ホームのボランティアの仕事をとおして、お年寄りにお世話をかけたから。」「最初は不安だったけれど、安心したから。また、今度ボランティアに来てみたいと思ったから。」など、主人公に共感する発言がみられた。また、学習シートの記述にも「他人が来てもこんなに喜んでくれるのだから、また来たいと思った。自分がやったことと重ね合わせると同じだと思った。」など、自分の経験と照らし合わせながら共感的な考え方を記入している生徒もみられた。

また、1年A組の、話合いを手だての中心とした指導実践2では、「主人公はどうして悩んだのだろうか。」という発問に対して、「自分で責任を感じていたし、友達のせいにしてしまったことを後悔しているから。」「自分のせいで割ったガラスのことを、友達のせいだけにしてしまったことに対して強い責任感を感じたから。また、自分から謝りに行かなければ、友達に対しても何のつぐないにもならないから。」など、葛藤する主人公に共感する発言や記述が、数多くみられた。

指導実践3では、自分の考えを表明するためのカードを効果的に活用することで、主人公の葛藤する気持ちの揺れを理解することができた。また、手だてとしての話し合いや役割演技をとおして、資料の主人公と自分を重ね合わせながら考え、発言していく生徒の姿がみられた。しかし、資料を使った話し合いに時間をさくあまり、展開後段の話し合いで生徒同士の意見を交流させる際に、より考えを深めさせる話し合いができず、資料から離れた考えを活発に交流させる【図6】「共感する力」についての自己評価のまとめができなかったことが課題として残った。



【図6】は、授業で用いた学習シートの自己評価項目2「道徳の時間話し合いや役割演技で自分の考えを言ったり、友達のことを聞いたりできましたか」ということについて、学級別にまとめたものである。

1年A組の指導実践1では、小集団での話し合いが有効にはたらいため、肯定的な反応が多いが、指導実践2・3では展開後段の話し合いの深め方が弱かったため、肯定的な反応が低かったと思われる。1年B組では、話し合いが活発に行われた指導実践2・3で肯定的な反応が多かった。

展開後段での話し合いの深め方に課題は残るものの、どちらの学級でも、資料の主人公の心の動きや友達の考えに共感することができたと考えられる。

(り) 「発展させる力」について

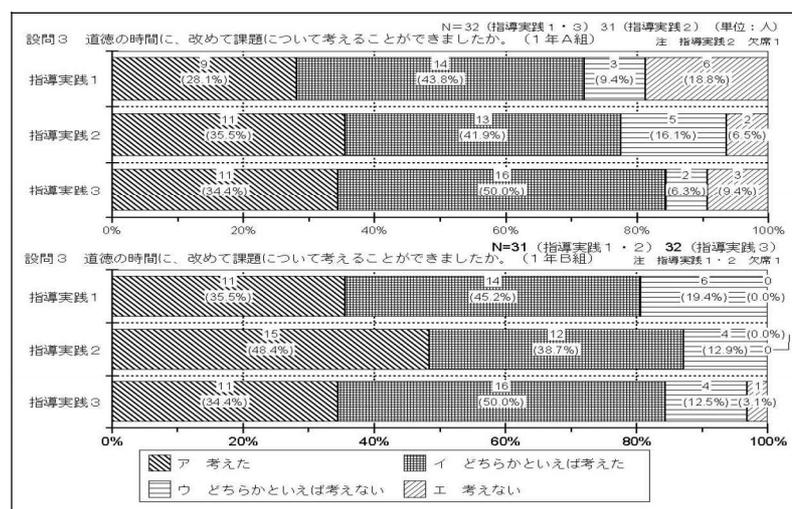
授業記録から「発展させる力」の育成状況について分析した。【表8】は、授業の終末段階における生徒の学習シートの記述をまとめたものである。また、18頁【図7】は、授業で用いた学習シートの自己評価項目3「道徳の時間に、改めて課題について考えることができましたか」ということについて、学級別まとめたものである。

【表8】終末段階における生徒の記述例

1年A組	1年B組
<p>こういう話は、今まで生きてきてたくさんあったけれど、この道徳の時間を通じて改めてわかったので、これからは自分の生活で生かしていきたいと思う。</p> <p>自分がしてしまったことを誰かのせいにならず、ちゃんと一人一人が責任をもつことが大切だと思った。</p> <p>自分のやったことに責任をもつということは大切だと改めて思った。「責任をとる」ということは、どういうことか考えることができた。</p> <p>ものごとは、自分の意見だけでは決められないと思った。キャプテンになることは、責任があることなので、やはり自分の考えだけでは決められなくて悩むことが多いのだろうと思った。</p> <p>自分になかった意見が、他にもあったということがこの時間で分かった。</p> <p>クラブのコーチがいつも厳しく指導するので、「なんでいつもこんなに厳しいのだろう?」と思っていたのだけれど、それはきっと私達に少しでも強くなってもらいたいという気持ちからだと思い、感謝し、これから一生懸命頑張ろうと改めて思った。</p>	<p>私は、こんな体験をしたことがないけれど、ただ考えることだけが正しいのではなく、実行して早く行動に移さなければならぬと感じた。</p> <p>自分もこういうことがあったら、すぐに謝りに行きたいと思った。しかし、それよりも、もっと考えながら行動するようにしたいと改めて思った。</p> <p>今日の道徳をとおして、何かしら人のせいにならず、自分で責任をしっかりとらなくてはならないと改めて考えた。</p> <p>人にはよいところもあるし、よくないところもあるので、よくないところばかりを見つけるのではなく、これからはよいところを見つけてあげたいと思った。</p> <p>一人一人の意見が違っているから、それをどうするかを考えていかなければチームワークがばらばらになってしまうので、自分にはつらいけれど時と場合によっては、言わなければならないときもあると思った。</p> <p>他の人の意見を聞いて考えたり、自分の考えをもち、それを言うことは大切だと思った。</p>

指導実践1では、総合的学習で取り組んだ福祉体験と、資料の題材が同じものであったので、自分たちの体験と重ね合わせながら、生徒は、改めて道德の時間の追求課題について考えたと思われる。しかし、終末段階において、自己の考えを発展させる場を設定できなかったことにより、自分の考えをより一層深めることができなかつたと思われる。

指導実践2・3では、生徒が資料と自分とを重ね合わせやすい



【図7】「発展させる力」についての自己評価のまとめ

資料の内容であったり、視聴覚機器を使ったりという資料提示の工夫をしたことや、話し合いや役割演技で自他の考えを共有したことにより、終末での記述が、道的価値を改めて考え、これからの自分に生かしていこうという内容のものになったと思われる。

どちらの学級も、指導実践を積み重ねることにより、学んだ道德的価値について改めて考え、自分の生活の中で生かしていこうとする思いを培うことができていると思われる。よって、課題はあるものの、生徒は、道德的価値を改めて考え、自分の生活に反映させていこうとする意識を育成できたものと考えられる。

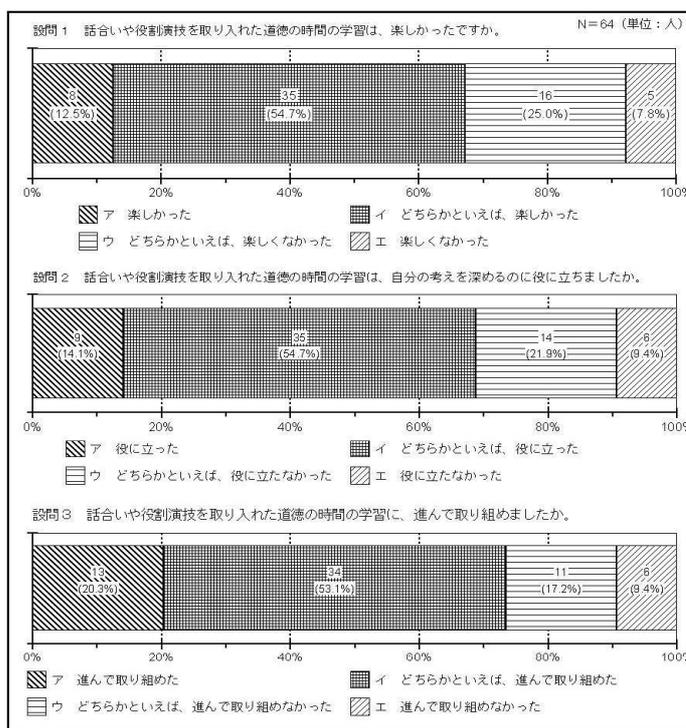
(2) 手だてに関する意識の状況について

【図8】は、手だてに関する意識の状況をみるために、生徒にどのように指導の手だてが受け止められたかをまとめたものである。また、19頁【表9】は、学級担任が授業を見て、手だてに関して感じたことをまとめたものである。

これらのことから分かることは、次のとおりである。

ア 生徒の手だてに関する意識の状況から

- ・手だてに関しては、約7割の生徒が肯定的に受け止めていた。
- ・生徒の自由記述の欄には、「役割演技を行うことによって、資料の主人公などの考えていることが分かるような気がした」「役割演技をすることにより、実際にその場のことを考えられるのでよいと思った」「自分や友達の考えを交流し合って、相手の意見を聞いて、自分にはない考えがあってよいと思った」「自分の考えだけではなく、友達の考えも取り入れることができ、またそこから新しい考えが浮かんできてよかった」など、指導過程や指導法の工夫についての有用感を記入している生徒が数多くいた。
- ・課題として、「役割演技や話し合いを工夫した道德の時間は疲れる」「面倒くさい感じがした」など、手だての工夫を肯定的に受け止められない生徒もいた。



【図8】手だてに関する意識の状況 (生徒)

「自分にはない考えがあってよいと思った」「自分の考えだけではなく、友達の考えも取り入れることができ、またそこから新しい考えが浮かんできてよかった」など、指導過程や指導法の工夫についての有用感を記入している生徒が数多くいた。

- ・課題として、「役割演技や話し合いを工夫した道德の時間は疲れる」「面倒くさい感じがした」など、手だての工夫を肯定的に受け止められない生徒もいた。

イ 学級担任の手だてに関する意識の状況から

・ 話し合いと役割演技という手だてや、

【表9】手だてに関する意識の状況（学級担任）

資料の活用の仕方や自分の考えを表現するカードなどの指導法の工夫により、道徳の時間への興味関心を高めることができた。その結果、道徳の時間への意欲を高めることができた。

- ・ 話し合いや役割演技を手だてとしながら道徳的価値を追求し、自分と他人の考えを交流したことが、相手を認めたり自分の意見を改めて考えたりする場になっていた。その結果、生徒が考えたい道徳の時間が展開できた。
- ・ 生徒の価値意識や生活の実態の把握

【興味・関心について】
 ・ 照れながらも楽しそうに取り組んだと思われる。カードを使うことで、意思決定が迫られるというのは、なかなか普段ないので、よかったと思われる。
 ・ 役割演技も、関心を高める上で効果があると思われた。さらに座席の配置の工夫も、いつもと違っていたことで、興味を高められたと思われる。
 ・ 話し合い活動等が入ることで、意欲的に生徒が活動していく様子が見られた。関心も高められたと思われる。

【有用感】
 ・ 道徳の時間が、相手を認めたり、自分の意見に安心したりという場になったと思われる。
 ・ 意思表示カードで、表明した後で、その理由を質問されるので、生徒は、一生懸命思考していたと思われる。思考の場をつくるという点で、とてもよかったと感じられた。
 ・ 役割演技では、自分のこととして考え、その考えを深めることができたと思われる。

【意欲】
 ・ 楽しく取り組む手だてがいくつもあったので、進んで取り組めたと思われる。
 ・ いつもと違う座席ということや、自分の考えを表示するカード、ビデオなど、資料を読むことだけでなく、いろいろな刺激を与えることで、意欲的に取り組むことができたと思われる。

【生徒の価値意識や生活の実態の把握について】
 ・ 日常観察だけでは、把握しきれないこともあるので、効果的だったと思われる。
 ・ 事前の実態把握があったからこそ、座席配置、カードの使用、発問の準備ができたのだと思われる。
 ・ 生徒の実態を、さらに深く知る上では、効果があったと思われる。

【指導過程と指導法の工夫について】
 ・ 座席の配置、カードの表示、意見をたたく合わせる場の保障がよかったと思われる。
 ・ 座席の工夫、意思表示カード、役割演技、思考場面の設定、一人一人の意見を大切にすることを（全員を発表させたこと）、事前アンケートによる実態把握、実態を考慮した展開、質問の工夫、板書の工夫（紙板書）、机間巡視による個への配慮がよかったと思われる。

【改善・修正点】
 ・ 普段生徒をよく知っている担任ならば、さらにもっと生徒を生かせると思われる。
 ・ 話し合いなどをしていく中で、本来の自分の考えから、おもしろく言おうとするなどの安易な考えに流されてしまうことがある生徒もおり、自分の考えをしっかりとらせるようにさせていくことが必要と思われた。

については、質問紙により、日常の観察だけでは把握できない部分もあるので、実態を深く知る上では効果があったと思われる。

- ・ 生徒の価値意識や生活の実態に応じて、展開や発問、板書の工夫など、指導法を工夫することができ、生徒の道徳的価値を深める上で有効である。
- ・ 課題として、自分の考えをしっかりともち述べることを日常的に指導する必要がある。

これまで(1)(2)で述べてきたことから、生徒の価値意識や生活の実態を把握し、それに応じた豊かな表現活動を位置付けた指導過程に基づいて指導したことにより、生徒は道徳的価値を受け止め、これからの生き方をつくりあげようとする思いをもつことができたと思える。

以上のように、生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法の工夫により、心に響く道徳の時間で育てる力、「把握する力」「共感する力」「発展させる力」が高まったと思える。また、生徒の価値意識や生活の実態に応じた豊かな表現活動を位置付けた指導過程や指導法の工夫により、生徒自らが考えたい道徳の時間を展開することができたと思える。しかし、指導過程の展開後段の話し合いの際に、生徒の考えをより深く問う発問の在り方や、話し合いをより深める意見の交流のさせ方に、一層の工夫をすることが必要であると思える。

7 心に響く道徳の時間の指導に関する研究のまとめ

本年度は、昨年度の成果を踏まえながら、中学校道徳の時間における心に響く道徳の時間の試案に基づく指導実践計画を立案すること、指導実践計画に基づき指導実践を行い、その結果について、指導実践並びに生徒と学級担任へのアンケートを基に分析・考察すること、指導実践の成果と課題をまとめ、生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法を工夫した心に響く道徳の時間の指導に関する研究の妥当性を明らかにすること、の三つに取り組んできた。

ここでは、生徒の価値意識や生活の実態に応じた心に響く道徳の時間の指導計画に基づいた指導実践と、その分析・考察によって明らかになった成果と課題についてまとめる。

(1) 成果

ア 指導する価値項目と中心資料にかかわる、生徒の価値意識や生活の実態を把握する道徳アンケートにより、学級をタイプ別に分け、その実態に応じて指導したことにより、話し合いや役割演技が積極的に行われ、生徒に意欲をもたせながら道徳の時間を展開することができたこと。

イ 生徒の価値意識や生活の実態に応じた豊かな表現活動を位置付けた学級のタイプに応じた指導過程の基本パターンに沿って、自分の価値観を明らかにしながら、役割演技や話し合いをすることにより、生徒に、資料の登場人物に共感させながら、多様な考えを交流させることができたこと。また、生徒に改めて道徳的価値を考えさせ、これからの生き方に反映させようとする意識をもたせることができたこと。

ウ 視聴覚資料の活用などの資料提示の工夫により、生徒が興味をもって、より意欲的に道徳の時間に取り組むことができ、生徒が自ら考えたいくなる道徳の時間が展開できたこと。

エ 生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程や指導法を工夫した指導実践により、心に響く道徳の時間で育てる力、「把握する力」「共感する力」「発展させる力」の三つ力の意識を高め、その結果、生徒が自分の心に道徳的価値を受け止め、これからの生き方をつくり上げようとする思いをもたせることができたこと。

(2) 課題

ア 自分の生活と道徳的価値を結び付ける際の発問を工夫すること。

イ より多様な考え方が導き出されるような、役割演技や話し合いの形態の在り方を検討すること。

ウ 道徳的価値をより深めるための意図的指名の工夫と、展開後段場面での生徒の意見の交流のさせ方に工夫をすること。

以上のことから、課題はあるものの、生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法の工夫が、概ね中学校の心に響く道徳の時間の指導について効果があり、中学校道徳の時間の指導の充実に役立つという見通しをもつことができた。

研究のまとめ

この研究は、中学校の道徳の時間において、生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法を工夫することにより、生徒の心に響く道徳の時間の指導について明らかにし、道徳の時間の指導の充実に役立てようとするものである。

2年次研究の第1年次である昨年度は、先行研究や文献から得た資料や情報を基に、心に響く道徳の時間の指導に関する基本的な考え方の検討、心に響く道徳の時間の指導に関する基本構想の立案、基本構想に基づく生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法を工夫した心に響く道徳の時間の手だての試案の作成を行った。

第2年次である今年度は、中学校道徳の時間における心に響く道徳の時間の手だての試案に基づく指導実践計画を立案し、それに基づいた指導実践を行い、その結果と分析・考察をとおして、心に響く道徳の時間の指導に関する研究について、価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法の工夫の有効性の検討を行った。

1 研究の成果

(1) 心に響く道徳の時間の指導に関する基本的な考え方

先行研究や文献を基に、心に響く道徳の時間を「道徳の時間を資料や話し合いをとおして、心が揺さぶられ、道徳的価値の自覚を深め、これからの生き方への指針を見いだすことができる時間」とおさえ、心に響く道徳の時間で育てる力、「把握する力」「共感する力」「発展させる力」の三つの力を育成するために、生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法を工夫した心に響く道徳の時間を展開する必要があるという考え方を示すことができた。

(2) 心に響く道徳の時間の指導に関する基本構想の立案

生徒の価値意識や生活の実態を把握し、その傾向性から学級集団を四つのタイプに分けそのタイプに応じた指導過程を作成し、その指導過程に基づいた指導を行えば、生徒の心に響く道徳の時間が展開できるという基本構想を立案することができた。

(3) 心に響く道徳の時間の指導に関する手だての試案

基本構想を受けて、生徒の価値意や生活実態に応じた豊かな表現活動を位置付けた指導過程を作成し、資料の選択や提示の工夫し、話し合いや動作化、役割演技という豊かな表現活動を取り入れた、生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法を工夫した心に響く道徳の時間の手だての試案を作成することができた。

(4) 中学校道徳の時間における心に響く道徳の時間の手だての試案に基づく指導実践計画の立案

生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法を工夫した心に響く道徳の時間の指導に関する手だての試案を基に、研究協力校においての指導実践計画を立案することができた。

(5) 指導実践計画に基づく指導実践とその分析・考察

指導実践計画に基づき指導実践を行い、心に響く道徳の時間で育てる力、「把握する力」「共感する力」「発展させる力」の三つの力が高まったと考えられ、生徒の価値意識や生活の実態に応じた豊かな表現活動を位置付けた指導過程や指導法の工夫が、心に響く道徳の時間の指導において有効性が見られることが分かった。

(6) 中学校道徳の時間における心に響く道徳の時間に関する研究のまとめ

指導実践の分析と考察により成果と課題をまとめ、生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法を工夫した心に響く道徳の時間は、生徒が自分の心に道徳的価値を受け止め、これからの生き方をつくり上げようとする思いをもつことができ、生徒自らが考えたい道徳の時間が展開できるようになり、中学校道徳の時間の指導の充実に役立つという見通しをもつことができた。

2 今後の課題

今後は、道徳的価値の自覚をさらに深めるために、生徒の意見交流のさせ方を工夫し、興味関心をもたせつつ、より多様な考え方を引き出せるような指導実践を展開していきたいと考える。

おわりに

この研究を進めるにあたり、ご協力いただきました研究協力校の先生方、生徒の皆さんに心からお礼を申し上げます。

【参考文献】

- 青木孝頼・金井 肇・佐藤俊夫・村上敏治（1980）,『新道徳教育事典』, 第一法規
荒木紀幸（1988）,『道徳教育はこうすればおもしろい - コールバーグ理論とその実践 - 』, 北大路書房
荒木紀幸（1997）,『続 道徳教育はこうすればおもしろい - コールバーグ理論の発展とモラルジレンマ授業 - 』, 北大路書房
石井知予子（2001）,『中学校における心に響く道徳の時間の展開』, 京都市立永松記念教育センター
岩手県道徳教育研究会（2000）,『Q & A 道徳教育』, 岩手県道徳教育研究会
七条正典・五条しおり（1999）,『中学生の心の教育』, 日本図書センター
全国道徳授業実践研究会（1999）,『生徒の心に響く道徳授業の進め方』, 東洋館出版社
諸富祥彦（1997）,『道徳授業の革新 - 「価値の明確化」で生きる力を育てる』, 明治図書

補充資料

<目 次>

【補充資料 1】事前事後調査紙	資 1
【補充資料 2】手だてに関する意識の状況を見る事後調査紙	資 2
【補充資料 3】生徒の価値意識や生活の実態を把握するための道徳アンケート	資 5
【補充資料 4】指導展開案（略案）と道徳学習シート	資 7

アンケートのお願い

このアンケートは、みなさんが「道徳の時間」について、どんなことを思っているのかを知るためのアンケートです。それぞれの答えのなかから、自分の考えに近いものを一つ選んで、で囲んでください。また、これは、学習の成績等に関係するものではありませんので、質問をよく読んで、思ったとおり答えてください。

1年 組 番 氏名

- 1 道徳の時間に、資料を、今までの自分の生活と関連付けて考えますか。
ア 関連付けて考える
イ どちらかといえば、関連付けて考える
ウ どちらかといえば、関連付けて考えない
エ 関連付けて考えない
- 2 道徳の時間に、資料の主人公の心の動きや行動に、自分を重ね合わせて考えますか。
ア 重ね合わせて考える
イ どちらかといえば、重ね合わせて考える
ウ どちらかといえば、重ね合わせて考えない
エ 重ね合わせて考えない
- 3 道徳の時間に、話し合い等で友達が述べたことを聞いて、いろいろな考え方を受け入れることができますか。
ア 受け入れることができる
イ どちらかといえば、受け入れることができる
ウ どちらかといえば、受け入れることができない
エ 受け入れることができない
- 4 道徳の時間に、話し合い等をとおして、今までの自分になかった考え方や気持ちに、気付くことができますか。
ア 気付くことができる
イ どちらかといえば、気付くことができる
ウ どちらかといえば、気付くことができない
エ 気付くことができない
- 5 道徳の時間に、考えたり、話し合ったりしたことを、今後の自分の生活に生かそうと思いませんか。
ア 生かそうと思う
イ どちらかといえば、生かそうと思う
ウ どちらかといえば、生かそうと思わない
エ 生かそうと思わない



【補充資料2】手だてに関する意識の状況をみる事後調査紙（生徒用）

1 話し合いや役割演技を取り入れた道徳の時間の学習をとおして、自分の考えに近いものを一つ選び、 で囲んでください。

(1) 話し合いや役割演技を取り入れた道徳の時間の学習は、楽しかったですか。

- ア 楽しかった
- イ どちらかといえば、楽しかった
- ウ どちらかといえば、楽しくなかった
- エ 楽しくなかった

(2) 話し合いや役割演技を取り入れた道徳の時間の学習は、自分の考えを深めるのに役に立ちましたか。

- ア 役に立った
- イ どちらかといえば、役に立った
- ウ どちらかといえば、役に立たなかった
- エ 役に立たなかった

(3) 話し合いや役割演技を取り入れた道徳の時間の学習に、進んで取り組みましたか。

- ア 進んで取り組めた
- イ どちらかといえば、進んで取り組めた
- ウ どちらかといえば、進んで取り組めなかった
- エ 進んで取り組めなかった

2 話し合いや役割演技を取り入れた道徳の時間では、自分や友達のことを交流しました。このような学習の仕方について、感想を書いてください。

これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

【補充資料2】手だてに関する意識の状況をみる事後調査紙（教師用）

アンケートのお願い

生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法を工夫した心に響く道徳の時間の指導実践授業を見ての率直なご意見・ご感想をお願いします。

お名前	
-----	--

1 生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法を工夫した道徳の時間について、授業を見て、感じたことをお書きください。

(1) 話し合いや役割演技を取り入れた道徳の時間の学習において、生徒の興味・関心は、日常の道徳の時間と比べて、どのようなものでしたか。授業を見て、感じたことをお書きください。

--

(2) 話し合いや役割演技を取り入れた道徳の時間の学習において、生徒が自分の考えを深めることは、日常の道徳の時間と比べて、どのようなものでしたか。授業を見て、感じたことをお書きください。

--

(3) 話し合いや役割演技を取り入れた道徳の時間の学習において、生徒の取り組みの様子は、日常の道徳の時間と比べて、どのようなものでしたか。授業を見て、感じたことをお書きください。

--

- (4) 生徒の価値意識や生活の実態の把握についての調査紙は、生徒の実態を把握する上で、効果があったと思われますか。感じたことをお書きください。

- (5) 生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法の工夫をした道德の時間について、効果があったと思われる点についてお書きください。

- (6) 生徒の価値意識や生活の実態に応じた指導過程と指導法の工夫をした道德の時間について、改善・修正が必要と思われる点についてお書きください。

- 2 その他、指導実践全体をとおして、お気付きの点があれば、お書きください。

これでアンケートは終わりです。ご協力、たいへんありがとうございました。

【補充資料3】生徒の価値意識や生活の実態を把握するための道徳アンケート

<指導実践1における道徳アンケート>

道徳アンケート	内容項目 4 - (5)
1年組 番氏名()	
このアンケートは、あなたが考えていることや日頃の生活について質問するものです。自分の考えや生活にあてはまる記号に、 を付けてください。また、それを選んだ理由を空欄に書いてください。	
これは学習の成績等に関係するものではありませんので、思ったとおり答えてください。	
1 あなたは、ボランティア活動や地域での奉仕活動をとおして、社会の発展に努めることが大切だと思いますか。	
ア そう思う イ どちらかといえばそう思う ウ どちらかといえばそう思わない エ そう思わない	
〔理由〕	
2 あなたは、日頃の生活で機会があれば、ボランティア活動や地域での奉仕活動に参加しますか。	
ア 参加する イ どちらかといえば参加する ウ どちらかといえば参加しない エ 参加しない	
〔理由〕	

<指導実践2における道徳アンケート>

道徳アンケート	内容項目 1 - (3)
1年組 番氏名()	
このアンケートは、あなたが考えていることや日頃の生活について質問するものです。自分の考えや生活にあてはまる記号に、 を付けてください。また、それを選んだ理由を空欄に書いてください。	
これは学習の成績等に関係するものではありませんので、思ったとおり答えてください。	
1 あなたは、何が正しく、何が誤りであるかを、 <u>自分で判断し、行動することが大切</u> だと思いますか。	
ア そう思う イ どちらかといえばそう思う ウ どちらかといえばそう思わない エ そう思わない	
〔理由〕	
2 あなたは、日頃の生活で、何が正しく、何が誤りであるかを、 <u>自分で判断し、行動</u> していますか。	
ア している イ どちらかといえばしている ウ どちらかといえばしていない エ していない	
〔理由〕	

3 あなたは、自分の行動について責任をもつことが大切だと思いますか。

ア そう思う イ どちらかといえばそう思う ウ どちらかといえばそう思わない エ そう思わない

〔理由〕

4 あなたは、日頃の生活で、自分の行動に責任をもっていますか。

ア もっている イ どちらかといえばもっている ウ どちらかといえばもっていない エ もっていない

〔理由〕

< 指導実践3における道徳アンケート >

道徳アンケート

内容項目 2 - (5)

1年組 番氏名()

このアンケートは、あなたが考えていることや日頃の生活について質問するものです。自分の考えや生活にあてはまる記号に、 を付けてください。また、それを選んだ理由を空欄に書いてください。

これは学習の成績等に関係するものではありませんので、思ったとおり答えてください。

1 あなたは、自分の考えだけを押しつけず、人の意見にも素直に耳を傾けることは、大切だと思いますか。

ア そう思う イ どちらかといえばそう思う ウ どちらかといえばそう思わない エ そう思わない

〔理由〕

2 あなたは、日頃の生活で、自分の考えだけを押しつけず、人の意見にも素直に耳を傾けていますか。

ア している イ どちらかといえばしている ウ どちらかといえばしていない エ していない

〔理由〕

【補充資料4】指導展開案（略案）と道徳学習シート

ア 1年A組 指導実践1における指導案（タイプ の指導過程）

主題名 奉仕の精神＜勤労、社会への奉仕、公共の福祉4 - (5)＞

資料名 楽寿号に乗って（出典 「明日をひらく」1年 東京書籍）

ねらい 高齢者に対して、思いやりと敬愛の心をもって接するとともに、進んで人々のために尽くそうとする意欲や態度を育てる。

展開案

段階	学習活動	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 (20分)	<p>1 「福祉体験」の気持ちを振り返る 追求課題提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ボランティア活動のあり方について考えよう</p> </div> <p>「福祉体験」に取り組んで、どんな感想をもったか発表する。 「福祉体験」に取り組んだときの気持ちを振り返る。 友達と「福祉体験」の感想を交流する。</p>	<p>「楽しかった、充実した」 「難しいと感じた、緊張した」 「その他」</p> <p>友達感想を聞いて、それぞれの体験先で学んだことがわかった。 自分だけではなく、みんなも大変だったことがわかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 福祉体験の写真による動機付け 2・3名に指名し、発表させる。 自分の気持ちをカードで表す（自己理解） 友達との意見交流（他者理解） 道徳シート
展開 (25分)	<p>2 「楽寿号に乗って」を読んで話合う</p> <p>「わたし」は楽寿園のボランティア活動に参加して、お年寄りについて、どんなことを考えたか。</p> <p>「わたし」が「これからは進んでボランティア活動に参加したい」と考えたのはなぜだろうか。</p> <p>3 ボランティア活動や奉仕活動に参加するときの心構えについて話合う ボランティア活動に参加するときには、どのような心構えが大切だと思うか。</p>	<p>最初はお年寄りの相手がつとまるのかが不安だった。 食事の介護がうまくできるか心配だった。 自分が声をかけることにより、笑顔で答えてくれて安心した。 会話をしていると、心が落ち着いてくる。 お年寄りも話し相手がほしいのでは。 本当は自分の家で、家族と過ごしたいのではないだろうか。 亡くなった祖母を思い出す。 家族のような気持ちでいたわってあげたい</p> <p>今回の経験で少し自信がついたので。 この次は、もっと上手に落ち着いてやれると思ったから。 ボランティア活動を行って、とてもすがすがしい気持ちになったから。 わたしたちが着ただけで、こんなに喜んでくれるお年寄りに、少しでも力になってあげたいから。 家族から尽くしても耐えないお年寄りのために、家族のような気持ちで接してあげたいから。</p> <p>相手のことを考えて、参加すること。 相手に優しく接してあげること。 ともに生きる一人の人として、気持ちをもって接すること。 自分自身が成長できるという、感謝の気持ちをもたなければならないこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料を使った話し合い（他者理解） 「お年寄りを知り、お年寄りについて考えさせられた」に着目させる。
終末 (5分)	<p>4 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日学んだことを書く。 教師説話 		<p>道徳シート 自己評価</p>

道徳学習シート「楽寿号に乗って」

1年 組 番 氏名()

1 「福祉体験」の交流をしましょう。

名 前	体験先	感 想 (友達の考えたこと)

友達の「福祉体験」の感想を聞いて、あなたはどんなことを考えましたか。

--

2 どうして「わたし」は、進んでボランティア活動に参加してみようと思ったのですか？

【道徳の時間を振り返って】

1 自分の生活を振り返って考えましたか。

ア 考えた イ どちらかといえば考えた ウ どちらかといえば考えない エ 考えない

2 話合いで、自分の考えを言ったり、友達の考えを聞いたりできましたか。

ア できた イ どちらかといえばできた ウ どちらかといえばできなかった エ できなかった

3 ボランティア活動について改めて考えましたか。

ア 考えた イ どちらかといえば考えた ウ どちらかといえば考えない エ 考えない

- イ 1年B組 指導実践1における指導案(タイプ の指導過程)
 主題名 奉仕の精神<勤労、社会への奉仕、公共の福祉4-(5)>
 資料名 楽寿号に乗って(出典 「明日をひらく」1年 東京書籍)
 ねらい 高齢者に対して、思いやりと敬愛の心をもって接するとともに、進んで人々のために
 尽くそうとする意欲や態度を育てる。

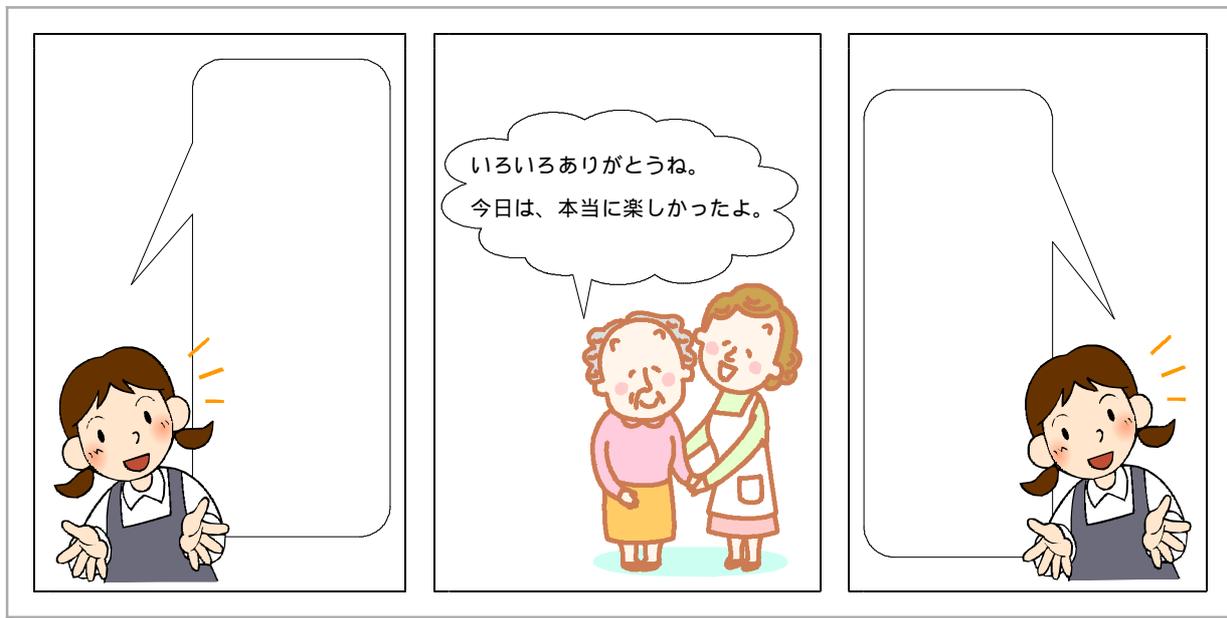
展開案

段階	学習活動	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 (15分)	<p>1 「福祉体験」の気持ちを振り返り 「福祉体験」に取り組んで、どんな感想をもったかを発表する。</p> <p>追求課題提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">ボランティア活動について考えよう</div> <p>2 「楽寿号に乗って」を読む</p>	<p>活動は大変だったが、たくさんのことを学ぶことができた。 福祉体験はやり終えてみると楽しい活動だった。 初めてのことであったので、緊張して取り組んだ。 難しかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 福祉体験の写真による動機付け 2・3名に指名し、発表させる 資料を読みながら、自分の気持ちについてカードを使って示す(自己理解)
展開 (30分)	<p>3 「楽寿号に乗って」について話合う 「わたし」は楽寿園のボランティア活動に参加して、お年寄りについて、どんなことを考えたか。</p> <p>「わたし」は、楽寿園での活動を終え帰るとき、お年寄りにどんな声をかけて帰ったか、役割演技をする。</p> <p>「わたし」が「これからは進んでボランティア活動に参加したい」と考えたのはなぜだろうか。</p> <p>4 ボランティア活動や奉仕活動に参加するときの心構えについて考える ボランティア活動に参加するときには、どのような心構えが大切だと思うか。</p>	<p>自分が声をかけることにより、笑顔で答えてくれて安心した。 会話をしていると、心が落ち着いてくる。 お年寄りも話し相手がほしいのでは。 本当は自分の家で、家族と過ごしたいのではないだろうか。 亡くなった祖母を思い出す。 家族のような気持ちでいたわってあげたい。 家族がおみまいに訪れてもいいのではないか。</p> <p>ペアでの取り組み 全体での発表</p> <p>今回の経験で少し自信がついたので。 この次は、もっと上手に落ち着いてやれと思ったから。 ボランティア活動を行って、とてもすがすがしい気持ちになったから。 わたしたちが来ただけで、こんなに喜んでくれるお年寄りに、少しでも力になってあげたいから。 家族から尽くしてもらえないお年寄りのために、家族のような気持ちで接してあげたいから。</p> <p>相手のことを考え、参加すること。 相手に優しく接してあげること。 とともに生きる一人の人として、気持ちをもって接すること。 自分自身が成長できるという、感謝の気持ちをもたなければならない。</p>	<p>「お年寄りを知り、お年寄りについて考えさせられた」に着目させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 役割演技(他者理解) 道徳シート 形態を変えて話合い(他者理解)
終末 (5分)	<p>5 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日学んだことを書く。 教師説話 		<p>道徳シート 自己評価</p>

道徳学習シート「楽寿号に乗って」

1年 組 番 氏名()

1 「わたし」はどんなことを話したのでしょうか？



2 どうして「わたし」は、進んでボランティア活動に参加してみようと思ったのですか？

【今日の道徳の時間を振り返って】

1 自分の生活を振り返って考えましたか。

ア 考えた イ どちらかといえば考えた ウ どちらかといえば考えない エ 考えない

2 役割演技で、自分の考えを言ったり、友達のことを聞いたりできましたか。

ア できた イ どちらかといえばできた ウ どちらかといえばできなかった エ できなかった

3 ボランティア活動について改めて考えましたか。

ア 考えた イ どちらかといえば考えた ウ どちらかといえば考えない エ 考えない

ウ 1年A・B組 指導実践2における指導案(タイプ の指導過程)

主題名 自主・自律<自主・自律、誠実な行動1-(3)>

資料名 裏庭のできごと(出典 「中学校読み物資料とその利用」 文部省)

ねらい 自主的に考え誠実に行動して、その結果について責任をもとうとする態度を育てる。

展開案

段階	学習活動	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 (10分)	<p>1 自分達の生活を振り返る 追求課題提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分で考え、責任をもって行動することとは</p> </div> <p>自分が失敗をしたときの行動を考える。</p> <p>2 自分はどうかを考え友達と交流する</p>	<p>相手に謝る。 失敗を次に生かそうとする。 何もしない。 どうしようか悩む。 ごまかす。 誰かに相談する。 その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活アンケートの提示 ・自分の気持ちを拳手で表す(自己理解) ・友達との意見交流(他者理解)
展開 (35分)	<p>3 資料「裏庭のできごと」を視聴して話合う 資料を見ての感想を話す。</p> <p>雄一の言動について考える。 雄一についてどう思うか。</p> <p>ただ謝ればよいと思っ ているのではないか。</p> <p>大輔の言動について考える。 大輔についてどう思うか。</p> <p>健二と形だけ謝ってる のではないか。</p> <p>健二の言動について考える。 どうして健二は悩んだ のだろうか。</p> <p>翌日に謝りにいくことが すごいことなのか。</p>	<p>雄一の行動はしょうがないことだ。 大輔の行動は無責任な感じがする。 健二が最後に正直に言ったのは大事な ことだ。 本当にこんな風にうまくいくのだろ うか。 自分だったら、正直に言わないで、 そのままにしておくだろう。</p> <p>雄一はえらい。 すぐに謝りに行くのは立派だ。</p> <p>やはり、すぐに謝りに行くことが大 切だ。 だまっていればわからないのに、言 うことができるのはすごい。 自分も同じようにするかもしれない。 一番無責任だと感じる。</p> <p>そう思われるかもしれないけど、健 二から影響を受けたのではないか。 形だけでも、まずあやまることが大 切だと思う。</p> <p>友達との関係にひびが入るからだ と思う。 大輔のことを考えて、本当のことを 言うべきか悩んでいるのだと思う。 正直に言えば大輔に悪いし、このま まだと雄一に悪いし、その間で揺れ ていたと思う。</p> <p>自分でしっかりと考えて行動してい るのだから大事なことだと思う。 普通ならそのままにしておく、でも しっかりと考えたのだから、これはこ れでよいと思う。 自分にはこんなことができないの で、健二は素晴らしいと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を使っての 話合い(他者理解) ・否定的な切り返 し発問により、 しっかりと一人 一人の言動をと らえさせる。 ・様々な考えを 発表させ、考え を深める。 ・雄一、大輔の立 場も踏まえて、 健二の悩みに共 感させる。 ・自ら悩み考え、 結論を出したこ とが素晴らしい ことに気付かせ る。
終末 (5分)	<p>4 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日学んだことを書く。 ・教師説話 		<p>道徳シート 自己評価 心のノート P24~25</p>

道徳学習シート「裏庭でのできごと」

1年 組 番 氏名()

1 健二は、どうして必死に悩んだのでしょうか？



2 今日の道徳を振り返って、考えたことを書きましょう。

【道徳の時間を振り返って】

1 自分の生活を振り返って考えましたか。

ア 考えた イ どちらかといえば考えた ウ どちらかといえば考えない エ 考えない

2 話合いで、自分の考えを言ったり、友達の考えを聞いたりできましたか。

ア できた イ どちらかといえばできた ウ どちらかといえばできなかった エ できなかった

3 自分で考え、責任をもって行動することについて改めて考えましたか。

ア 考えた イ どちらかといえば考えた ウ どちらかといえば考えない エ 考えない

- 工 1年A組 指導実践3における指導案(タイプ の指導過程)
- 主題名 自他の尊重<自他の尊重、謙虚な心 2-(5)>
- 資料名 茂の悩み(出典 「中学校読み物資料とその利用 2」 文部省)
- ねらい いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、個性や立場を尊重することのできる判断力を育てる。

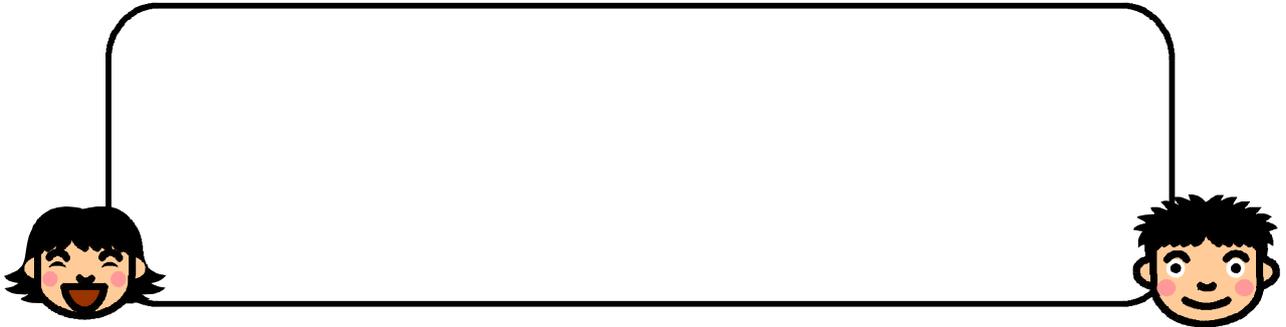
展開案

段階	学習活動	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 (15分)	<p>1 導入資料について考える 「心のノート」の絵を見る。 追求課題提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>ものの見方、考え方について考える</p> </div> <p>2 資料「茂の悩み」を読む</p> <p>茂は「正夫を使うべきか」 「正夫を使わないべきか」を 考える。</p>	<p>2種類の絵に見えることを理解する。</p> <p>正夫を使ったほうがいい。 正夫を使わないほうがいい。</p>	<p>「心のノート」 P54～55</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをカードを使って示す 自分の立場を明確にする(自己理解)
展開 (30分)	<p>3 茂の行動について話し合う 「キャプテンとして部全体のことを考えてください」と言われたときの茂の気持ちを考える。</p> <p>「正夫をはずした方がいい」という2人の言葉を聞いたときの茂の気持ちを考える。</p> <p>茂は浩二達に何と言ったか考える。</p> <p>茂の気持ちの変化を考えさせる。 正夫にシュートを教える稔を見たときの茂の気持ちを考える。</p> <p>4 自分の生活を想起させる 今までの生活で、他の人の立場になって考えたときの気持ちを考える。</p>	<p>勝つためには、その方がいい。はずした方がキャプテンとしてやりやすくなる。 1年生を入れることによって、リズムが崩れるときもある。 どうしたらいいのか迷ってしまう。</p> <p>2人とも同じ気持ちだから、正夫にはレギュラーから外れてもらおう。 1年生にやる気をもたせるためにも外れてもらおう。 外した方がチームのためにいい。</p> <p>正夫は稔と頑張っていた。だから、チームとして支えよう。 努力しているのだから、このままのかたちでいこう。 自分達だけでは決められない。顧問の先生に相談してみよう。</p> <p>正夫は一生懸命努力している。 稔は、本当に正夫のことを考えている。それに比べると自分はどうか。 正夫の努力を生かしていこう。みんなには自分が言う。 みんなに何と言えればいいのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料を使ったの話合い 感想の中から、茂の気持ちを焦点化させていく。 生徒の判断の拠り所となる考え方を掘り起こし、考えを深める。 浩二の発言や稔の行動を受けての茂の心の内を表現させる。 役割演技(他者理解) 生徒：茂 役 稔 役 教師：浩二役 形態を変えた話合い(他者理解) 稔の姿に、自分と異なる考えや行動をとらえたことをしっかりと把握させる。
終末 (5分)	<p>5 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日学んだことを書く。 教師説話 		<p>心のノート」 P56～57 道徳シート 自己評価</p>

道徳学習シート「茂の悩み」

1年 組 番 氏名()

- 1 「他の人の考えに接して、何かを教えられたこと」について書いてみましょう。



- 2 今日の道徳を振り返って、考えたことを書きましょう。

【道徳の時間を振り返って】

- 1 自分の生活を振り返って考えましたか。

ア 考えた イ どちらかといえば考えた ウ どちらかといえば考えない エ 考えない

--	--	--	--

- 2 話合いや役割演技で、自分の考えを言ったり、友達の考えを聞いたりできましたか。

ア できた イ どちらかといえばできた ウ どちらかといえばできなかった エ できなかった

--	--	--	--

- 3 自分以外の考え方や立場を大切にすることについて、改めて考えましたか。

ア 考えた イ どちらかといえば考えた ウ どちらかといえば考えない エ 考えない

--	--	--	--

オ 1年B組 指導実践3における指導案(タイプ の指導過程)
 主題名 自他の尊重<自他の尊重、謙虚な心 2-(5)>
 資料名 茂の悩み(出典 「中学校読み物資料とその利用 2」 文部省)
 ねらい いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、個性や立場を尊重することのできる判断力を育てる。

展開案

段階	学習活動	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 (15分)	<p>1 自分達の生活を振り返る 「心のノート」の絵は何に見えるか。 追求課題提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ものの見方、考え方について考える</p> </div> <p>アンケート「自分と異なる見方や考え方に出会ったら」を考える。</p> <p>他の立場や考えを理解していない自分に気付いた経験を振り返る。</p>	<p>2 種類の絵に見えることを理解する。</p> <p>相手の意見に耳を傾ける 自分の考えだけにこだわる その他</p> <p>どうしてその考えなのかを交流する。</p> <p>友達が気にしていることを何気なく言ってしまった。 話を聞いてほしいときに聞かなかった。 みんなが真面目に物事に取り組んでいるときにうるさくしていた。 一生懸命頑張っている人をからかってみた。</p>	<p>「心のノート」 P54～55</p> <p>・生活アンケート</p> <p>・自分の気持ちを挙手で表す (自己理解) ・友達との意見交流 (他者理解) 「心のノート」 P56～57 道徳シート</p>
展開 (30分)	<p>2 資料「茂の悩み」を読んで話合う 資料を読んだ感想を話合う。</p> <p>「キャプテンとして部全体のことを考えてください」と言われたときの茂の気持ちを考える。</p> <p>「正夫をはずした方がいい」という2人の言葉を聞いたときの茂の気持ちを考える。</p> <p>正夫にシュートを教える稔を見たとき、茂の気持ちを考える。</p> <p>3 自分の生活を想起する 他の人の立場になって考えたときの気持ちを考える。</p>	<p>茂はキャプテンとして正夫を外さない方がいい。 チームのために正夫を外す方がいい。 正夫と稔のがんばりを認めるべきだ。 浩二と信一郎は仲間のことを考えていない。</p> <p>勝つためには、その方がいい。 はずした方がキャプテンとしてやりやすくなる。 1年生を入れることによって、リズムが崩れるときもある。 どうしたらいいのかまよってしまう。</p> <p>2人とも同じ気持ちだから、正夫にはレギュラーから外れてもらおう。 1年生にやる気をもたせるためにも外れてもらおう。 外した方がチームのためにいい。</p> <p>正夫は一生懸命努力している。 稔は、本当に正夫のことを考えている。それに比べると自分はどうか。 正夫の努力を生かしていこう。みんなには自分が言う。 みんなに何と言えればいいのだろうか。</p>	<p>・資料を使った話合い (他者理解) ・感想の中から、茂の気持ちを焦点化させていく。</p> <p>・生徒の判断の拠り所となる考え方を掘り起こし、考えを深める。 ・浩二の発言や稔の行動を受けての茂の悩みに共感させる。 道徳シート</p> <p>道徳シート</p>
終末 (5分)	<p>4 本時のまとめ ・今日学んだことを書く。 ・教師説話</p>		<p>「心のノート」 P54～55 自己評価</p>

道徳学習シート「茂の悩み」

1年 組 番 氏名()

1 茂の気持ちを考えてみましょう。



2 「他の人の考えに接して、何かを教えられたこと」について書いてみましょう。

3 今日の道徳を振り返って、考えたことを書きましょう。

【道徳の時間を振り返って】

1 自分の生活を振り返って考えましたか。

ア 考えた イ どちらかといえば考えた ウ どちらかといえば考えない エ 考えない
|-----| |-----| |-----|

2 話合いで、自分の考えを言ったり、友達の考えを聞いたりできましたか。

ア できた イ どちらかといえばできた ウ どちらかといえばできなかった エ できなかった
|-----| |-----| |-----|

3 自分以外の考え方や立場を大切にすることについて、改めて考えましたか。

ア 考えた イ どちらかといえば考えた ウ どちらかといえば考えない エ 考えない
|-----| |-----| |-----|